

2025/R7年度

甲府まちなか社会実験

効果検証レポート | ver. 1.0

2026/1/21

甲府まちなかエリアプラットフォーム

目次

- 1. 社会実験の概要 _____ p. 3
- 2. 舞鶴城公園南広場 _____ p. 9
- 3. オリオン通り _____ p.34
- 4. 中央公園 _____ p.52
- 5. まとめ・今後の展望 _____ p.76

1. 社会実験の概要

「甲府まちなか未来ビジョン2025」の確認 ～GOALとSTRATEGY～

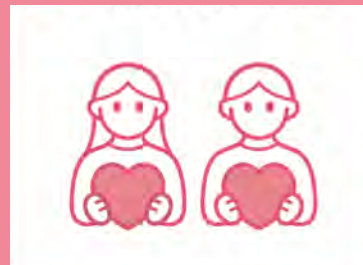
本社会実験は「甲府まちなか未来ビジョン2025」の実現に向けて必要な検証を行うものである。ビジョンで**実現したい状態（GOAL）**および**戦略の柱（STRATEGY）**は以下の通りである。

GOAL | 実現したい状態

甲府のまちなかにいる人が
「幸せで豊かな暮らし」を
実感できること



甲府のまちなかで魅力的な
ライフスタイルが実現すること



地元の人々がまちなかでの
暮らしを大好きになること



訪れた人のまちなかで
過ごす時間が増えていること

STRATEGY

戦略の柱

「ぐるりと回遊して楽しめるまちなかをつくっていく」

1 居心地のいい 場所 をつくる！

使われていない公園や道、空き店舗など、まちなかの「余白」を磨く活動と、それらの場所を使いこなすためのデザインや仕組みをつくり、居心地よく出かけたくなる目的地づくりを目指します。

2 甲府らしい 活動 をつくる！

日常を魅力的にする企画や、様々な人やコミュニティなどが連携できるような活動などをつくることで、甲府のまちなかに足を運ぶきっかけをつくり、魅力の最大化を目指します。

3 つながりやすい 導線 をつくる！

まちなかへのアクセスや回遊を促す方法を検討し、定着させていくことや、まちなかの魅力情報を発信して訪れるきっかけをつくることなど、まちなかを巡る導線づくりを目指します。

出典：甲府まちなか未来ビジョン2025

「甲府まちなか未来ビジョン2025」の確認 ～プロジェクト～

ビジョンでは7つのリーディングプロジェクトを立ち上げ、これらを自走化・定常化させることを目指している。本レポートは下記3プロジェクトを対象としている。

本レポートの対象プロジェクト

STRATEGY 戦略の柱

1

居心地のいい
場所をつくる！
に関連の深いPJ

舞鶴城公園
南広場PJ
> P.34~35



社会実験
実施



オリオン通りPJ
> P.36~37



社会実験
実施



中央公園PJ
> P.38~39



社会実験
実施



エリアリノベーションPJ > P.41

社会実験
検討中

STRATEGY 戦略の柱

2

甲府らしい
活動をつくる！
に関連の深いPJ

サーキュラーPJ
> P.41



社会実験
準備中

STRATEGY 戦略の柱

3

つながりやすい
導線をつくる！
に関連の深いPJ

街コンテンツPJ
> P.40



社会実験
実施

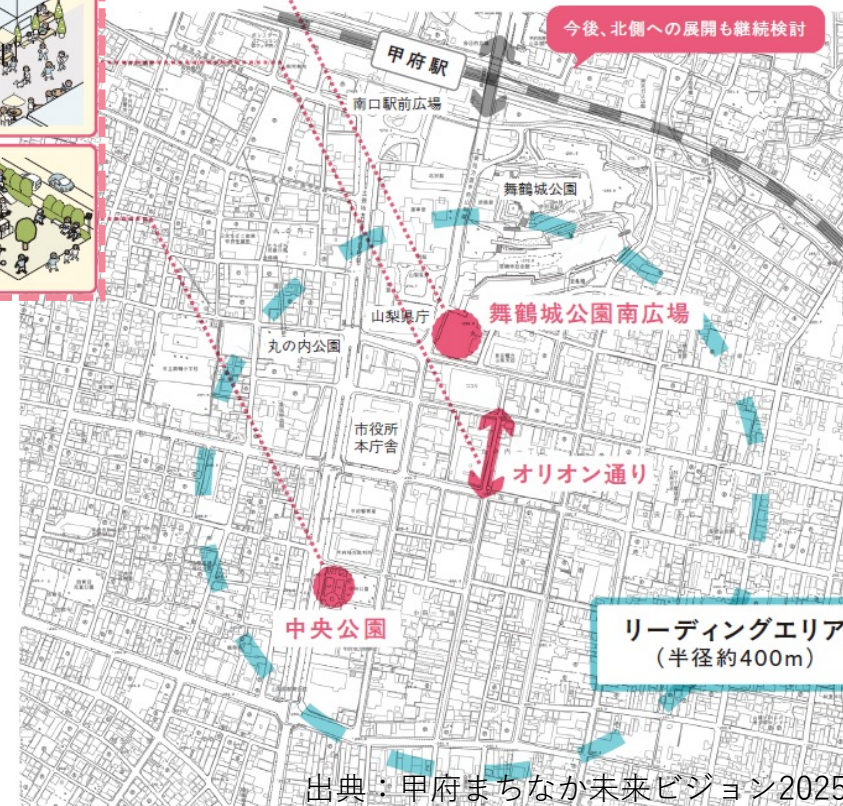
回遊モビリティPJ > P.41

社会実験
検討中

「甲府まちなか社会実験」として、
2024年10月に
実験的に将来イメージの
妥当性を検証(P.42~45参照)

リーディングエリア内で、
民間プレイヤーの声、
行政の整備計画予定、
全体への波及などを
踏まえて3ヶ所を選定

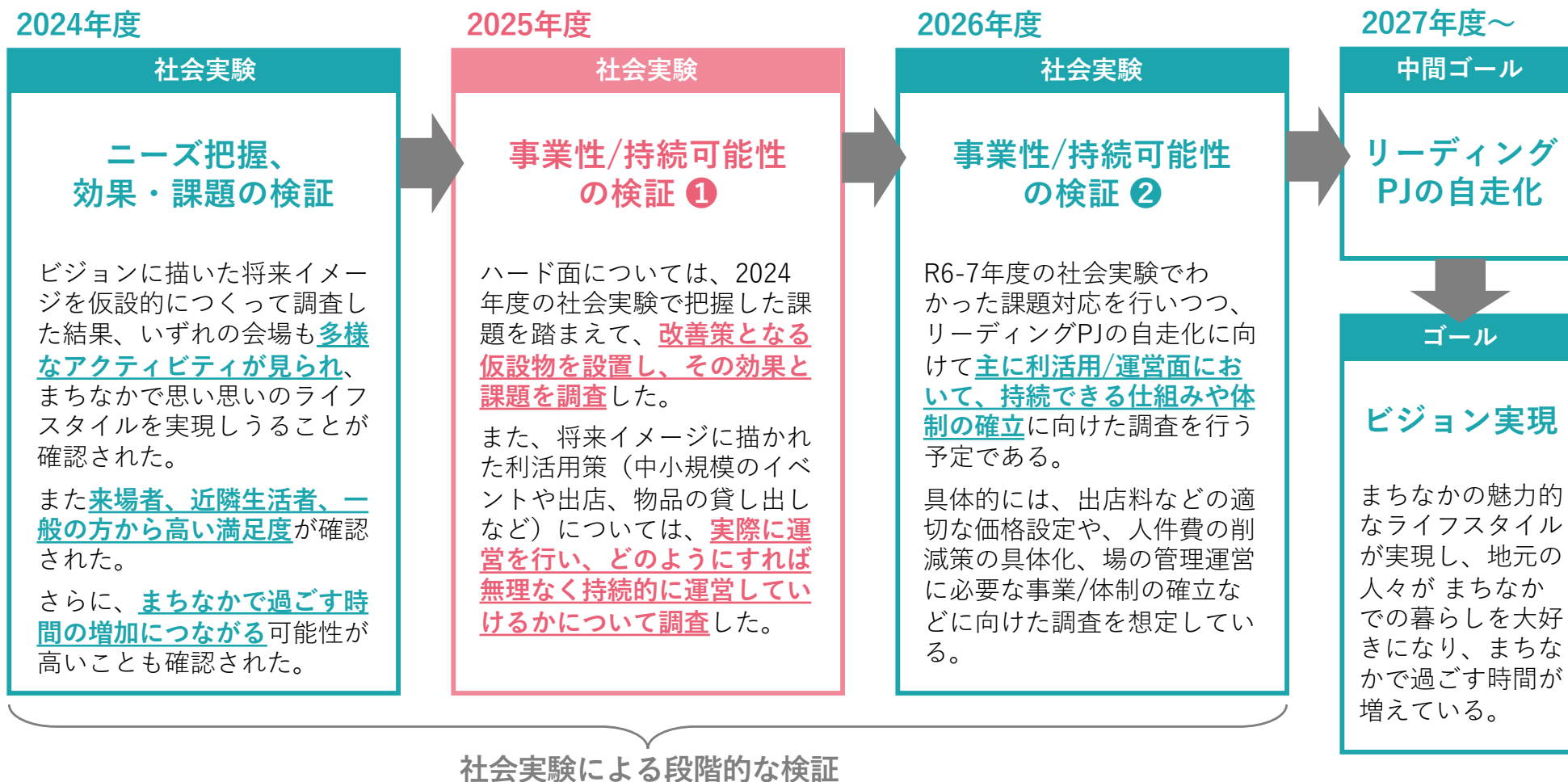
今後、北側への展開も継続検討



出典：甲府まちなか未来ビジョン2025




今年度の社会実験の位置付け

ビジョンの実現のために、リーディングPJが自走化（収益と費用がバランスした持続可能な状態での運営）することを目指している。そのために必要な事項を段階的に検証する社会実験を行う。今年度の社会実験は、の位置付けは下記の通りである。



甲府まちなか社会実験2025の開催概要

3つのプロジェクトの社会実験概要は下記の通りである。

	舞鶴城公園南広場	オリオン通り	中央公園
目的	再整備が計画されている3会場を対象に、ビジョンに描いた「それぞれの整備後のあり方」を仮設的につくり、滞留・出店などのアクティビティを生む空間づくりと運営マネジメントをあわせて実施。これらの調査・分析を踏まえ、より居心地のよい場所へのリニューアルを目指す。		
期間	8月20日（水）から11月30日（日）		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設的な空間づくりを行い、使われ方や評判、課題を調査。 ・ 利活用策（中小規模のイベント/出店など）の運営マネジメントを行い、評判や課題を調査。 		
協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨県（景観まちづくり室、中北建設事務所、文化振興・文化財課、埋蔵文化財センター） ・ ヴァンフォーレおしろらんど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨中央銀行およびオリオン通り沿道のみなさま 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨県（都市計画課、景観まちづくり室、中北建設事務所） ・ LIXIL
会場風景			

甲府まちなか社会実験2025の成果（サマリー）

社会実験で得られた成果を端的に述べると下記の通りとなる。

	舞鶴城公園南広場	オリオン通り	中央公園
成果 (サマリー)	いずれの会場も、いままでの場所のイメージや利用状況が大きく改善し、「居心地のよい滞留広場（南広場）」「路上出店コーナーのある通り（オリオン通り）」「ストリートスポーツ利用と一般利用が共存する公園（中央公園）」として利用者や近隣の方々に高く評価された。また、一時的な実験ではなく、常設化を望む声が多く集まった。		
	若者を中心に多世代に利用される 居心地のよい滞留広場 大きな日よけテント周りは暑い日も寒い日も滞留者分布が多く、ここをきっかけに広場利用が量的にも質的にも向上していた。 また、夜間照明と出店については近隣生活者の9割以上が支持し、来場者からも継続を求める声が多かった。	お店と滞留空間がセットになった 路上出店コーナーのある通り 来場者・近隣生活者ともに9割以上が、この通りに出店とライトアップがあることを望んでいた。 また、ゆったりとした滞留空間があることも評価が極めて高かった。	ストリートスポーツ利用と 一般利用が共存する公園 スケートボードなどのストリートスポーツができる空間があることについて、来場者の96%が肯定的であり、一般利用と空間の棲み分けをしたことで、一般利用者の約9割が安心感と快適性を感じた。 また、夜間照明への評価が高く、来場者の100%、近隣生活者の94%が好評価した。

2. 舞鶴城公園南広場

2-0 | 検証結果（結論）

若者を中心に多世代に利用される、居心地のよい滞留広場が生まれていた

大きな日よけテント（ロングシェード）周りは暑い日も寒い日も滞留者分布が多く、ここをきっかけに広場利用が量的にも質的にも向上していた。また、夜間照明と出店については近隣生活者の9割以上が支持し、来場者からも継続を求める声が多かった。

① ハード

- ◎ 今回設置したハードは、いずれも多くの方に支持され、好ましい結果であった
（ロングシェード、可動イス・テーブル、飛び出し抑制ベンチ、照明等）
- ◎ ロングシェードは、暑い日だけでなく、寒い日にも滞留のきっかけになっていた
- ◎ 歴史文化への愛着が増す可能性が確認された
- ✓ ただし、来場者が増えた分ゴミのポイ捨ても増えており、これを抑制するには別途何らかの対策が必要と考えられる

② 利活用/運営

- ◎ グッズ貸し出しサービスは高評価であった
- ◎ 可動イス・テーブルについては、毎日出し入れをせず、置きっぱなしにしている問題がないことが確認された
- ◎ 日常的な中小規模イベントや出店のニーズがあることが確認された
- ◎ イベント/出店の調整をAPが行うことは可能だが、持続させるためには現場対応等の省力化策が重要となる
- ✓ 敷地が広く出店が目立ちにくいため、出店ブースらしさや、わかりやすさ等の向上を図る

2-1 | 舞鶴城公園南広場PJの目指すゴール ～甲府まちなか未来ビジョン2025での位置付け～

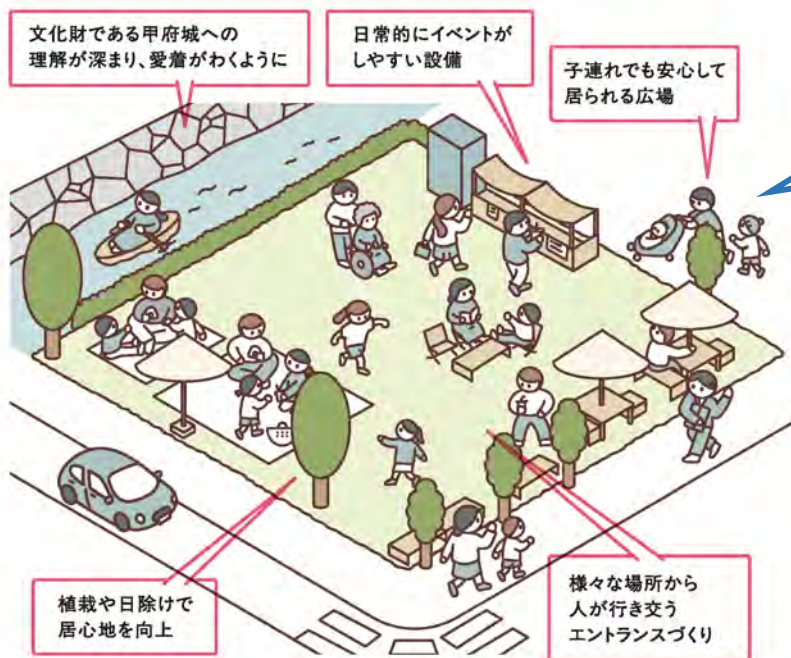
目指すゴール：① 県によるハード整備、② APによる日常的な利活用/運営 によって居場所となる広場を実現すること

だれでも思い思いに過ごせる居場所、 歴史と人とまちをつなげる「スクランブル」な広場

駅から南側への回遊拠点として、またビジネスマンや年配から子連れの方など、多様な人がゆったりと過ごせる場にするために必要なしつらえや活動がある

将来イメージ

※このイラストは、あくまでもイメージを示したものであり、実際の計画ではありません。



図出典：甲府まちなか未来ビジョン2025

将来イメージを具体化すると… これらがあるとよいのでは？

① ハード

- 居心地のよい日陰
- 子どもが道路へ飛び出さない工夫
- 夜も魅力的かつ安心できる照明
- イベント開催の負荷を下げる設備
- 不適切利用を抑制する工夫

など

② 利活用/運営

- 広場の日常利用を後押しするグッズの貸し出しサービス（ピクニックシートやバドミントン等）
- 中小規模イベントの日常的な開催/出店（キッチンカー出店、民間イベント利用など）

など

2-2 | 社会実験の検証項目と、空間デザインや利活用/運営の考え方

2024年度の社会実験では舞鶴通り側に大きな日除けテントを設置したが、舞鶴通りとの段差が死角となり、ゴミ放置や什器を乱暴に扱うなどの不適切利用が把握された。また、県の整備計画では東側に東屋を整備するイメージとなっていた。そのため、今年度は東側に日除けを配置することを念頭に置いた。昨年度未実施だった夜間照明を追加するとともに、イベント/出店などの運用面の検証に取り組んだ。

今年度の社会実験で検証するポイント		空間デザインや利活用/運営の考え方
① ハード	● 居心地のよい日陰	➤ 城址への眺めを確保（交差点からの視線の抜けを確保） ➤ 文化財へと馴染むデザインでの日陰の提供 ➤ ベンチ等の滞留のための什器の設置 ➤ スマホスタンドやミスト等による快適性向上
	● 子どもが道路へ飛び出さない工夫	➤ 車止めベンチによる車道への飛び出し抑制
	● 夜も魅力的かつ安心できる照明	➤ 仮設照明の設置
	● 不適切利用の抑制	➤ 日陰を死角の少ない東側に設置
② 利活用 /運営	● 居心地のよい日陰のための可動イスの管理	➤ 可動イス・テーブルの置きっぱなし運用を試行
	● 広場の日常利用を後押しするグッズの貸し出しサービス（ピクニックシートやバドミントン等）	➤ グッズ貸し出しサービスの運営 ➤ 「できます看板」の設置
	● 中小規模イベントの日常的な開催/出店（キッチンカー出店、民間イベント利用など）	➤ 民間イベント利用の呼びかけ/とりまとめを実施 ➤ 店舗/キッチンカー出店の公募/とりまとめを実施

2-3 | 空間デザイン



既存ベンチ



仮設ベンチ（飛び出し抑制）



プランター



案内サイン



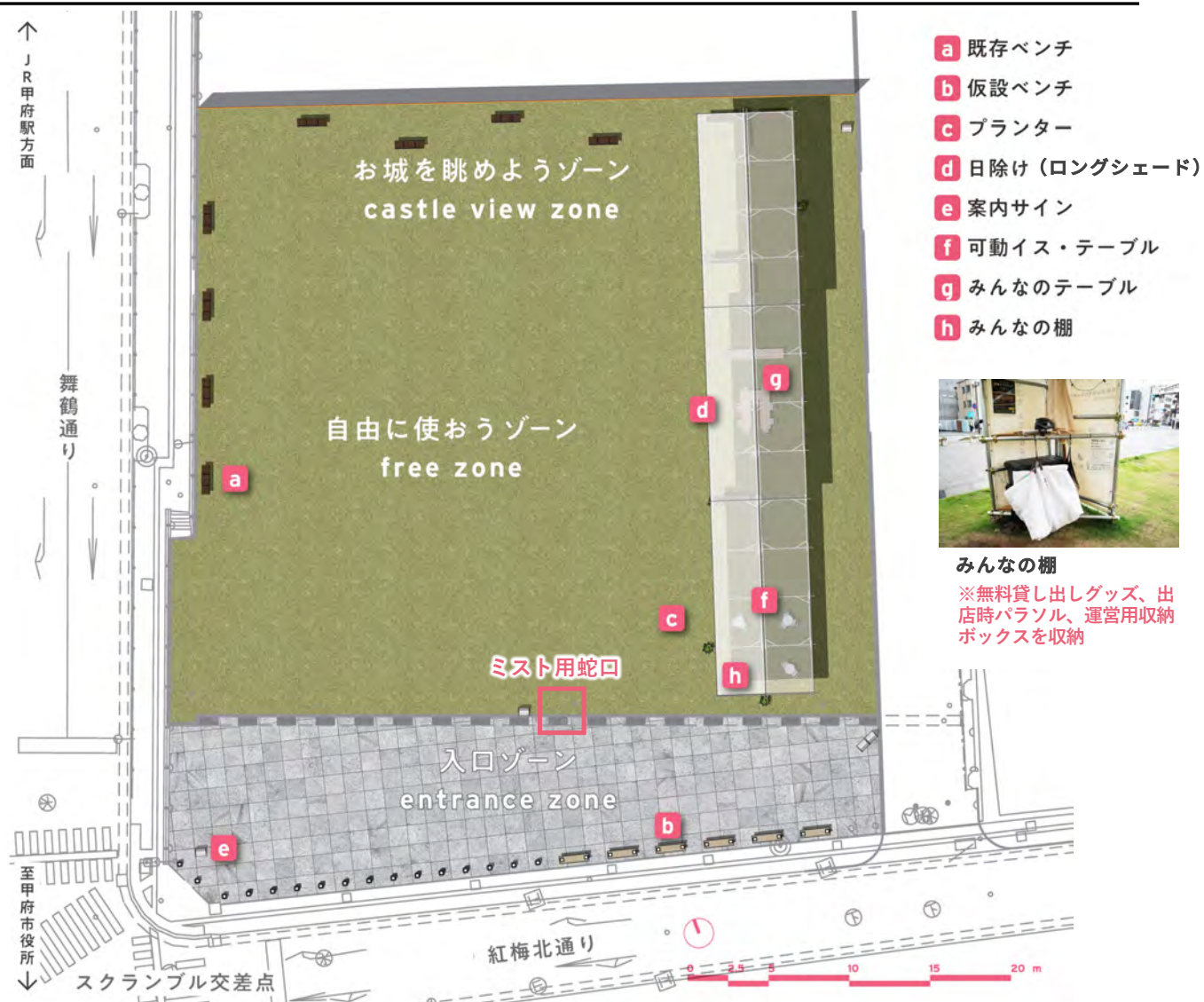
日除け（ロングシェード）



可動イス・テーブル



みんなのテーブル

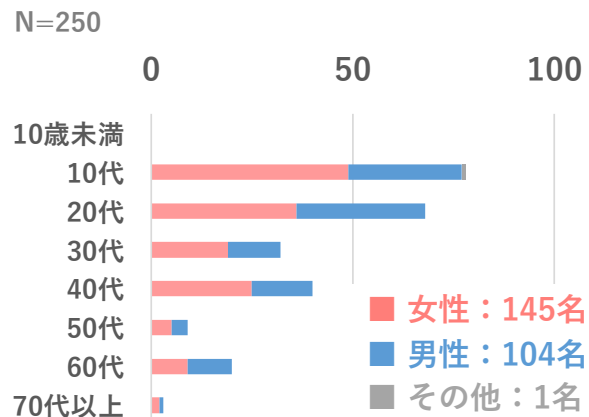


2-4 | 社会実験中の様子

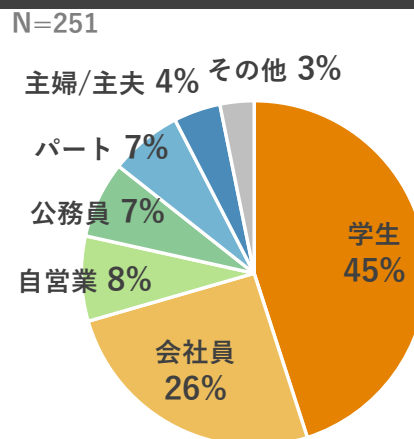


2-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=254 / 紙：118 WEB：136）

年齢層・性別

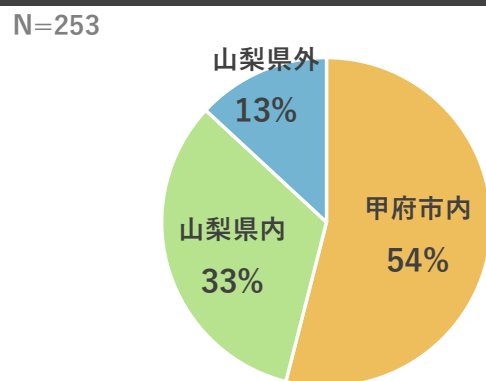


職業

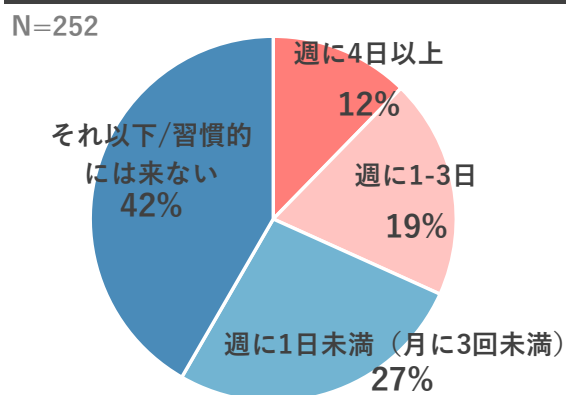


- 10～20代の若者、学生や会社員を中心に幅広い世代が利用
- 甲府市内／市外、習慣的に来る層／来ない層、どちらも利用
- 友人・家族との利用が多い

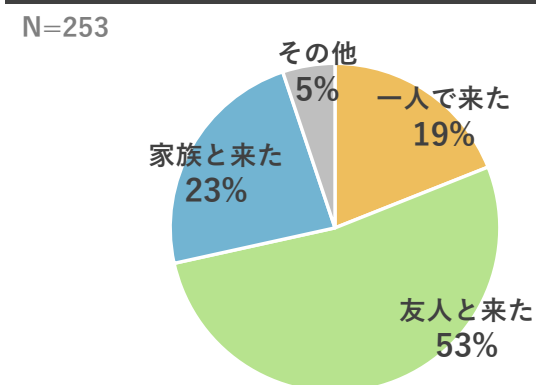
居住エリア



来場頻度



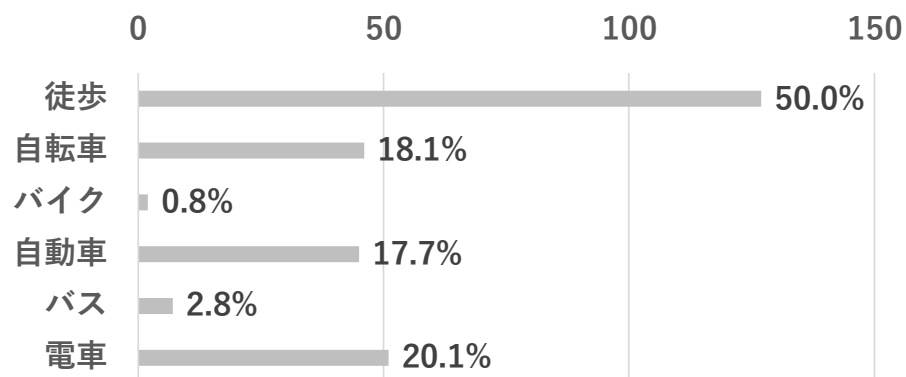
同伴者



2-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=254 / 紙：118 WEB：136）

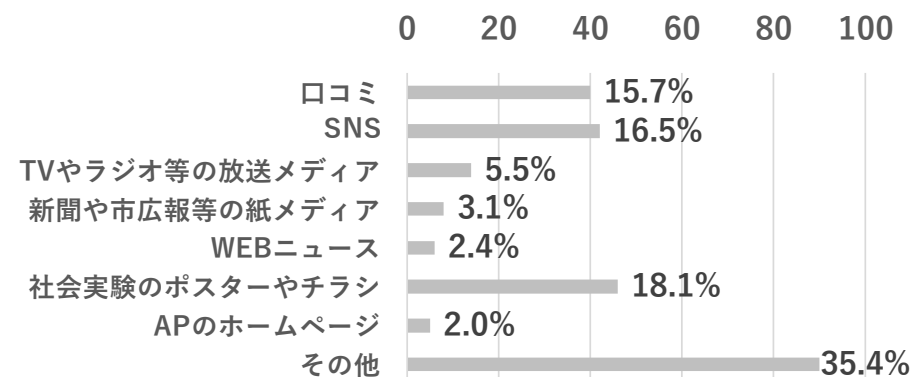
交通手段

N=252



社会実験情報の入手先

N=219



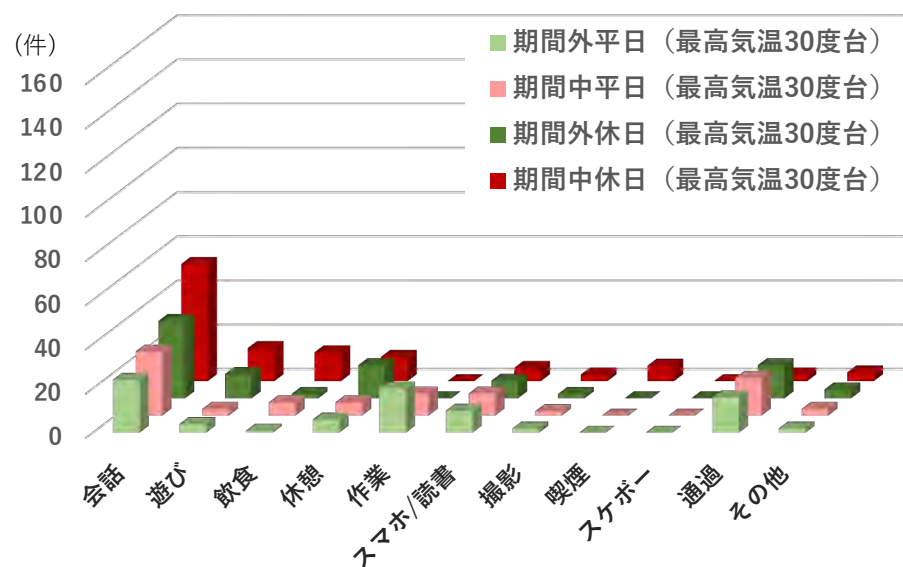
その他 | 「通りすがり」「散歩」「おしろらんどによく来るから」

- 徒歩で訪れる人が半数だが、自転車、自動車、電車での利用も多い
- 通りすがりや散歩など日常の延長で利用した人が多い
- 情報発信媒体は、ポスター、チラシ、SNS、口コミで情報を得た人が多い

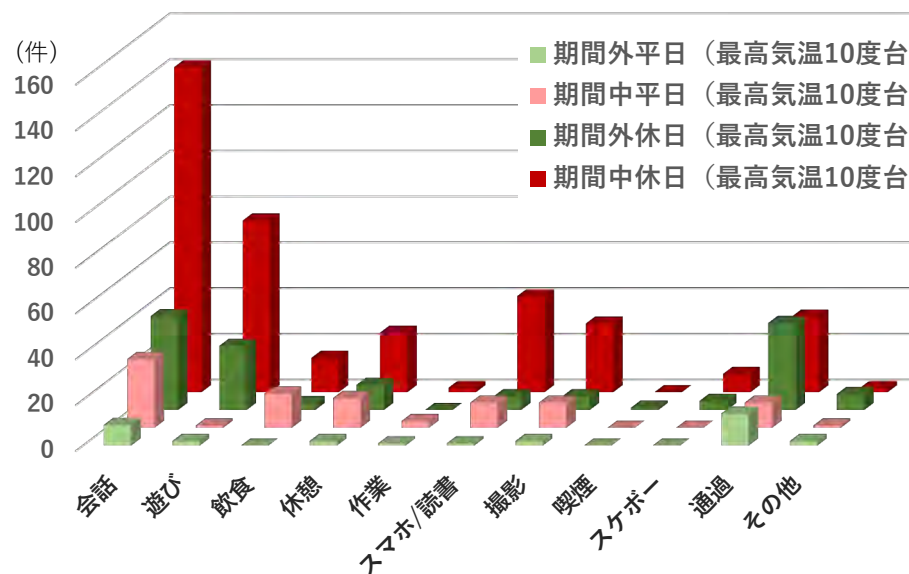
2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

期間内外の1日（8-22時）あたりのアクティビティ量

7月上旬～9月上旬（最高気温30度台）



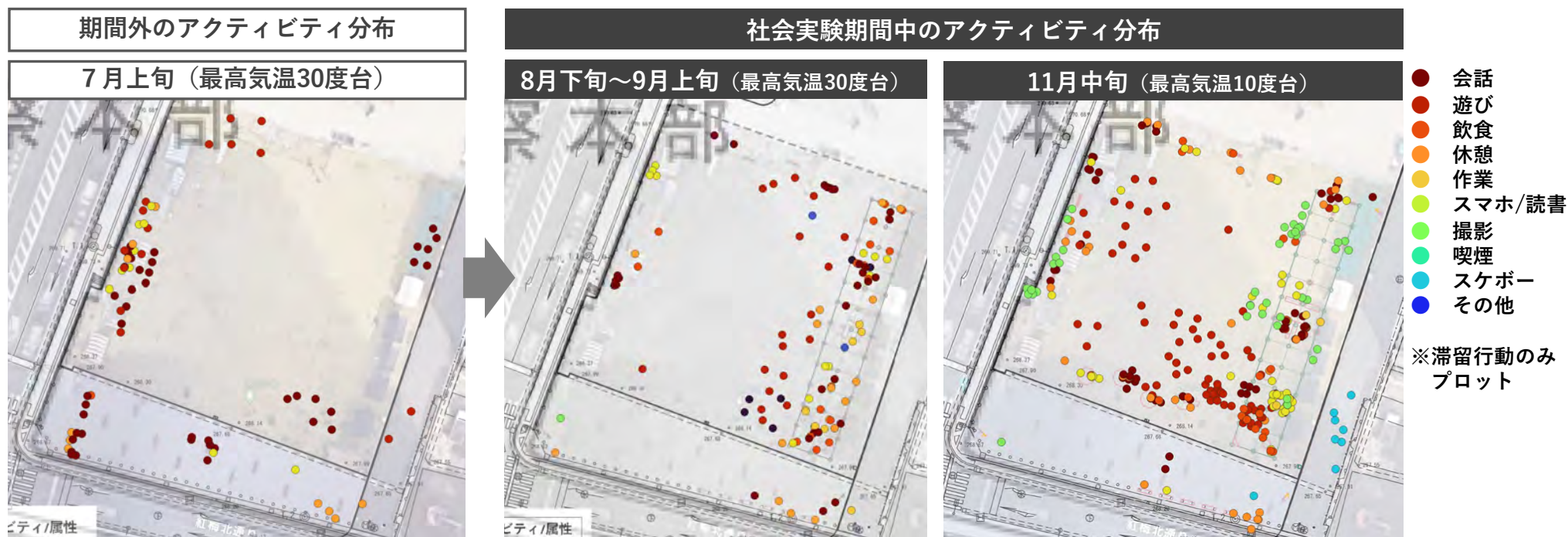
11月中旬～12月初旬（最高気温10度台）



■ ロングシェード下と周りの利用を中心に南広場全体での利用が促進された

➢ 社会実験中は「会話」「飲食」「休憩」「スマホ／読書」「撮影」などが増え、アクティビティが多様化

2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

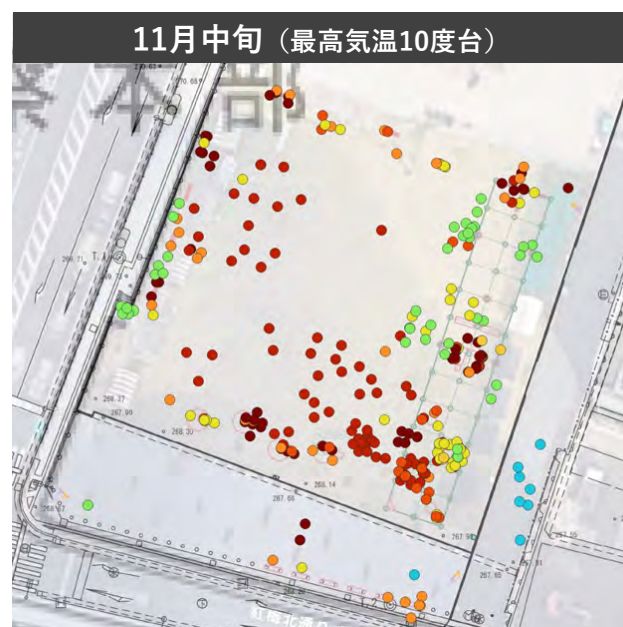


■ ロングシェードを中心に、南広場全体での利用が促進された

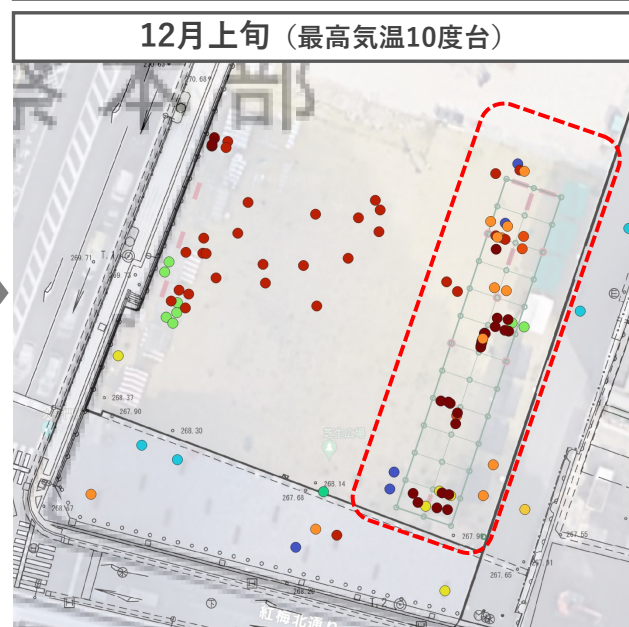
- 社会実験前は西側壁面付近や、南側ベンチの利用が主だったが、社会実験中はロングシェード周りを中心に南広場全体での利用が見られる
- ロングシェードは季節や気温に関わらず利用が多く、日陰としての役割のみならず空間的な拠り所になっている

2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

社会実験期間中のアクティビティ分布



期間外のアクティビティ分布



- | | |
|------|----------|
| ● 会話 | ● スマホ/読書 |
| ● 遊び | ● 撮影 |
| ● 飲食 | ● 喫煙 |
| ● 休憩 | ● スケボー |
| ● 作業 | ● その他 |

※滞留行動のみプロット

12月以降もロングシェードを撤去せず観察中



ロングシェード残置の様子

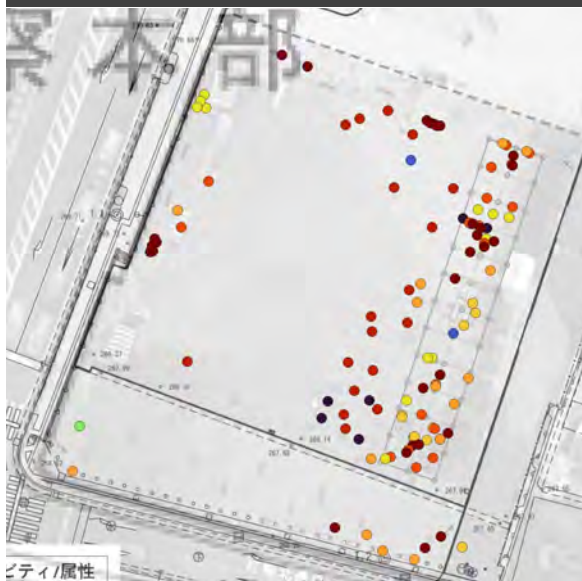
■ ロングシェード周りを中心に、南広場全体での利用が促進された（再掲）

- 社会実験前は西側壁面付近や、南側ベンチの利用が主だったが、社会実験中はロングシェード周りを中心に南広場全体での利用が見られる
- ロングシェードは季節や気温に関わらず利用が多く、日陰としての役割のみならず空間的な拠り所になっている

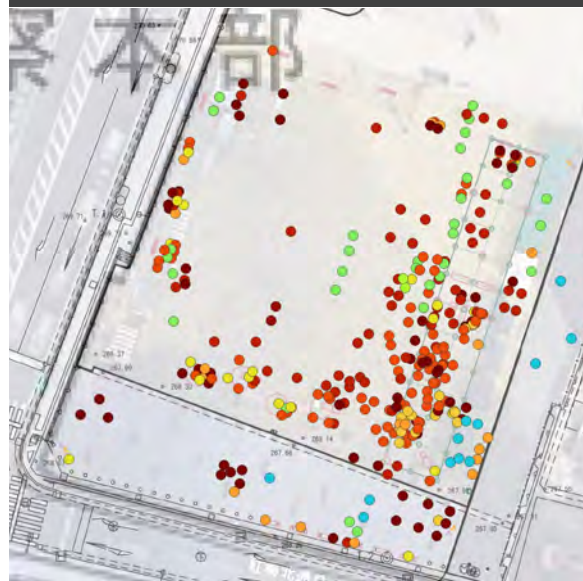
2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

社会実験期間中のアクティビティ分布 季節の変化

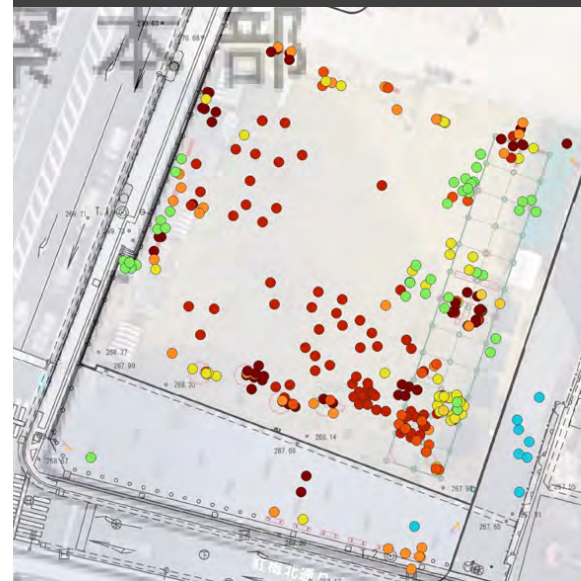
8月下旬～9月上旬（最高気温30度台）



10月中旬（最高気温20度台）



11月中旬（最高気温10度台）



- 会話
- 遊び
- 飲食
- 休憩
- 作業
- スマホ/読書
- 撮影
- 喫煙
- スケボー
- その他

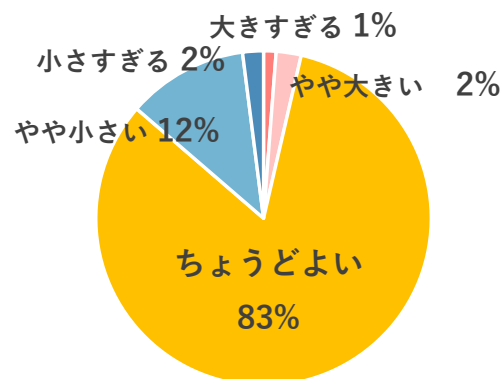
※滞留行動のみ
プロット

➤ 最も過ごしやすい気候である最高気温が20度台の時期が最もアクティビティが増えている。

2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

ロングシェードがつくる 日影のボリューム感への印象

来場者アンケート（N=249）

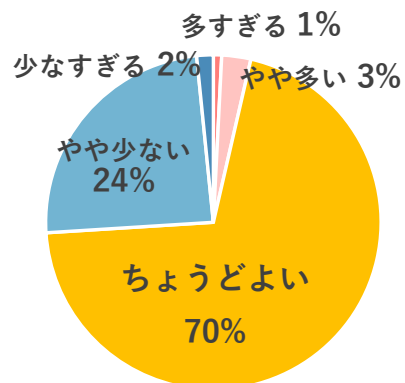


→ ちょうどよい：83%

小さい意見例：「広い方がみんなが座れる」

滞留空間の広がりや イス・テーブルの量への印象

同左（N=250）

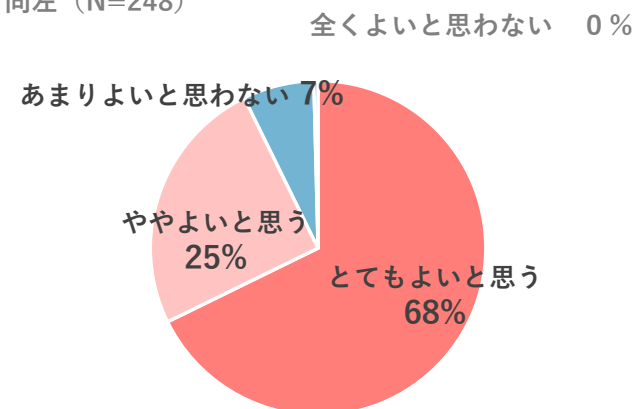


→ ちょうどよい：70%

少ない意見例：「休むことができるから」「大人数用、1人がけ用が複数あると良い」

今回はないが、今後この広場に 高木による木陰があった方がよいか否か

同左（N=248）



→ （やや+とても）よいと思う：93%

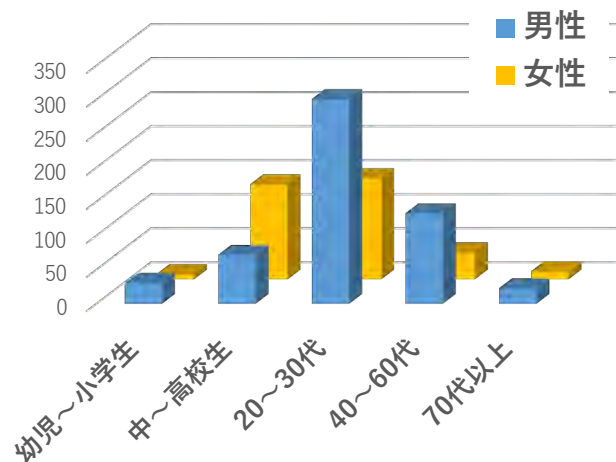
ポジ意見例：「自然があるべき」「投げり所がほしい」
ネガ意見例：「狭くなる」「虫・鳥・枯れ葉の問題」

■ 日陰、イス・テーブルなどの居場所づくりへ高いニーズ、好ましいボリュームが確認できた

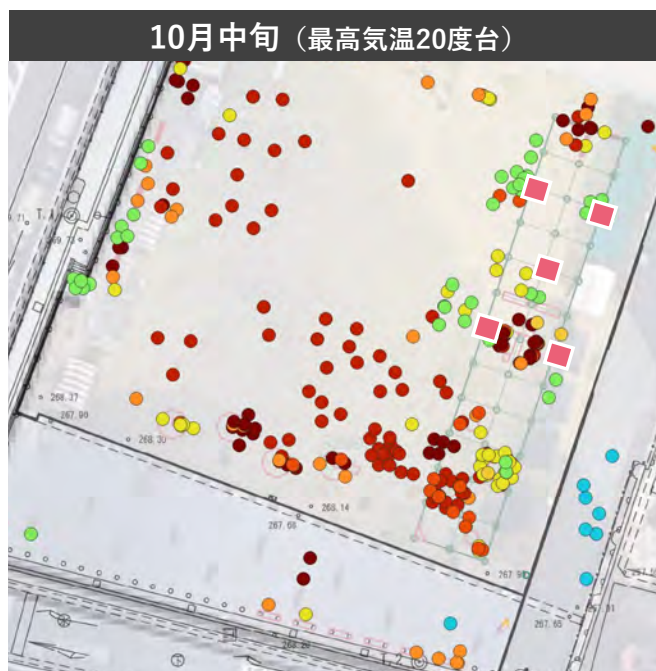
- ロングシェード（日陰）への高い評価と利用の多さ、高木（木陰）へのニーズの高さが確認できた
- イス・テーブルはちょうどよいが7割だが、さらに増やしてほしい意見も2割以上あり、ニーズが高い

2-6 | 居心地のよい日陰のあり方の検証

公園利用者の性別/年齢層



社会実験期間中のアクティビティ分布



スマホスタンドを設置



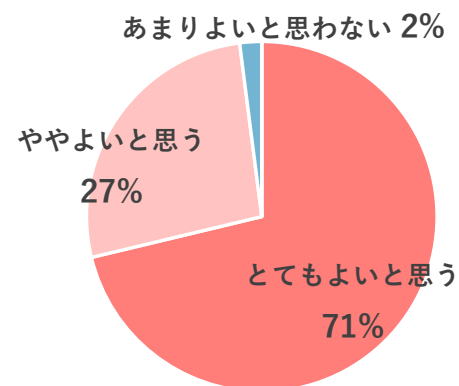
■ スマホスタンドなどターゲットを意識した仕様は、学生などの利用につながったと考えられる

- 中～高校生女性・20～30代男女・40～60代男性の利用が多い
- 利用の傾向として、短時間の立ち寄り等が手前、撮影はスマホスタンドを設置したロングシェード奥か舞鶴通り沿いが多い

2-7 | 道路へ飛び出さない工夫の検証

子どもの飛び出しを抑制するベンチ (紅梅北通り側) についての印象

来場者アンケート (N=254)



⇒ (やや+とても) よいと思う : 98%

ポジ意見例 : 「子どもが安全に遊べて良い」

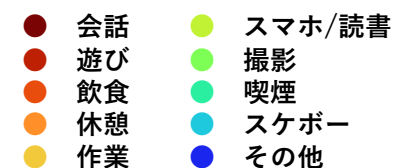
ネガ意見例 : 「夜危ないので視認性を上げてほしい」

社会実験期間中のアクティビティ分布

10月中旬 (最高気温20度台)



飛び出し抑制ベンチを設置



※滞留行動のみプロット



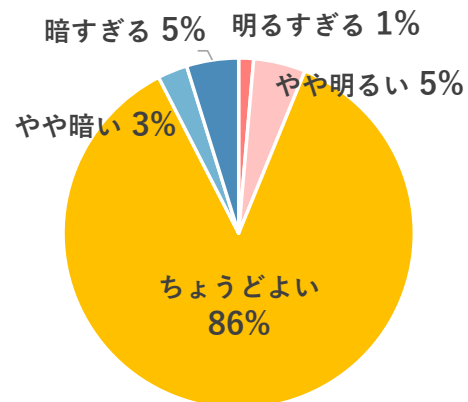
■子どもの飛び出し抑制ベンチは高評価

- 子どもの飛び出しを抑制するベンチは、98%の来場者が肯定的に評価した
- また、危険防止のみならず、滞留空間としても利用がみられた

2-8 | 夜も魅力的かつ安心できる照明の検証

夜間照明の明るさへの印象

来場者アンケート (N=146)



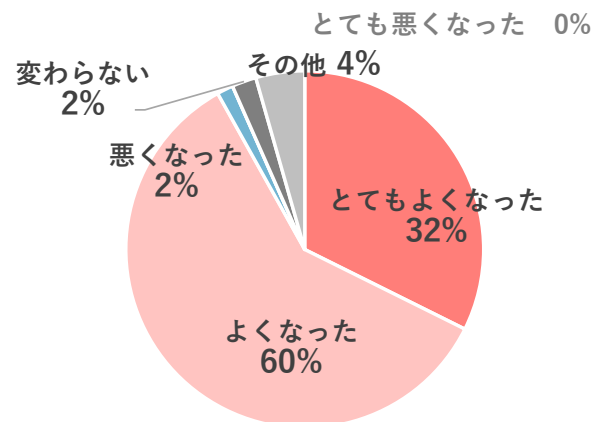
→ ちょうどよい：86%

ポジ意見例：「おしゃれ」「温かみがある」

ネガ意見例：「女性一人のときもう少し明るいと安心」

夜間照明への印象

近隣生活者アンケート (N=136)



→ (よく+とても) よくなった：92%

その他：「何をしているかがわからない」「お祭りをしている感がある」「若者が溜まりやすい」「城下町の景観の方が良い」「駐車場にすべき」

ネガ意見：「頓知気騒ぎや空き缶を道に投げ捨てる若者がいた」「デザインがよくない」



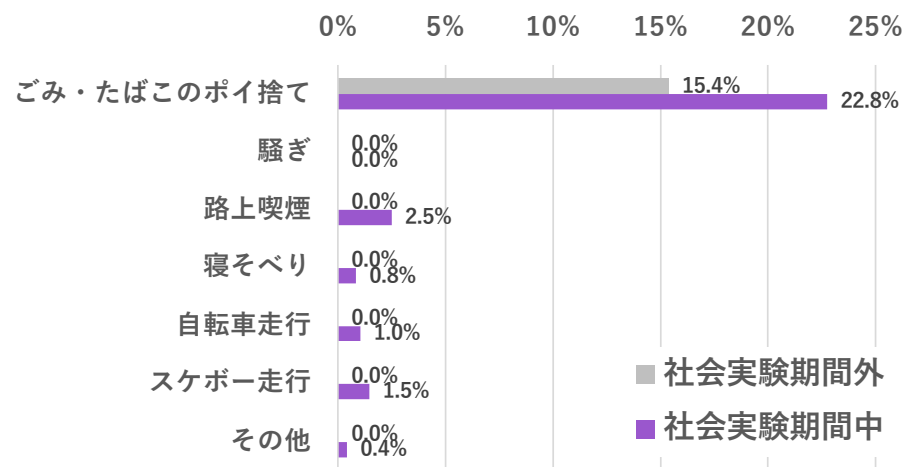
夜間出店の様子

■ 夜間照明は、温かみの演出や夜の利用・出店につながった

- 夜間照明の明るさは、ちょうどよいが8割以上
- 一般、近隣生活者からも9割がよい評価
- 夜間の出店やイベントも5件あり
- 平日・休日共に終電前までの時間帯を中心に、夜間でも多くの利用がみられた

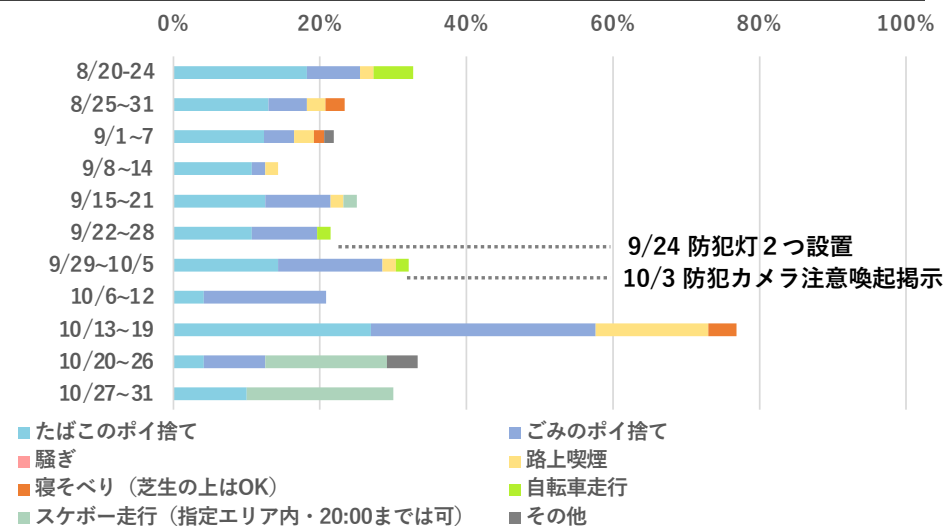
2-9 | 不適切利用の抑制の検証

社会実験期間中・期間外の不適切行為数の比較



※1時間に1回の会場巡回中に不適切行為に遭遇する頻度を表しています。

社会実験期間中の不適切行為数推移



※1時間に1回の会場巡回中に不適切行為に遭遇する頻度を表しています。

■利用者増とともにゴミ・たばこのポイ捨てが増加

- ゴミ・たばこのポイ捨て、路上喫煙などの行為は社会実験中に増加した
- 防犯灯、防犯カメラを設置、注意喚起掲示を行ったが効果はほとんど見られなかった

参考：南広場のアクティビティと不適切行為の比率（8～10月）

アクティビティ
期間前：期間中 = 1 : 1.84

不適切行為
期間前：期間中 = 1 : 1.89

アクティビティの増加量と不適切行為の増加量がほぼ同じ。来場者が増えた分、ゴミも増えた、と解釈できる。

2-10 | 居心地のよい日陰のための可動イスの管理の検証

■可動イス・テーブルを夜間も置いておく管理方法（置きっぱなし運用）で、問題なく管理ができた

- 特に休日において、終電前時間帯を中心に多くの利用があったが、可動什器を振り回したり、持って帰るなどの問題行動は一度も見られなかった
- ゴミの放置など利用マナーが悪い人は散見されたが置きっぱなし運用との関連性はないと考えられる



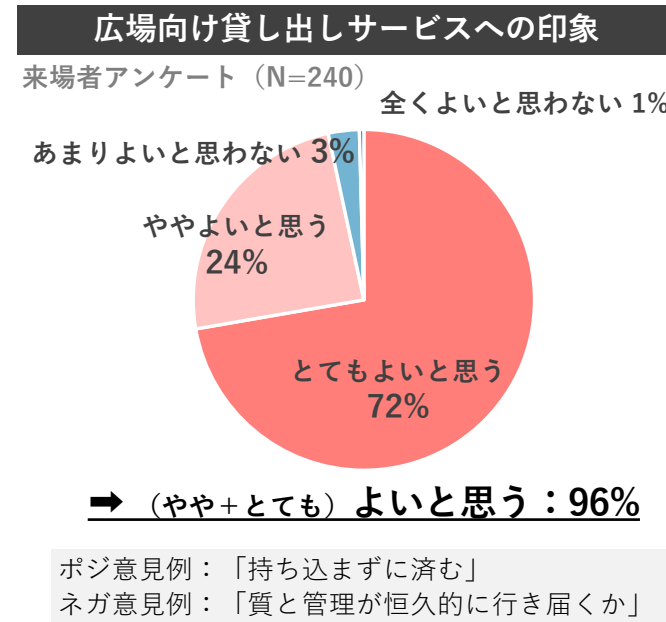
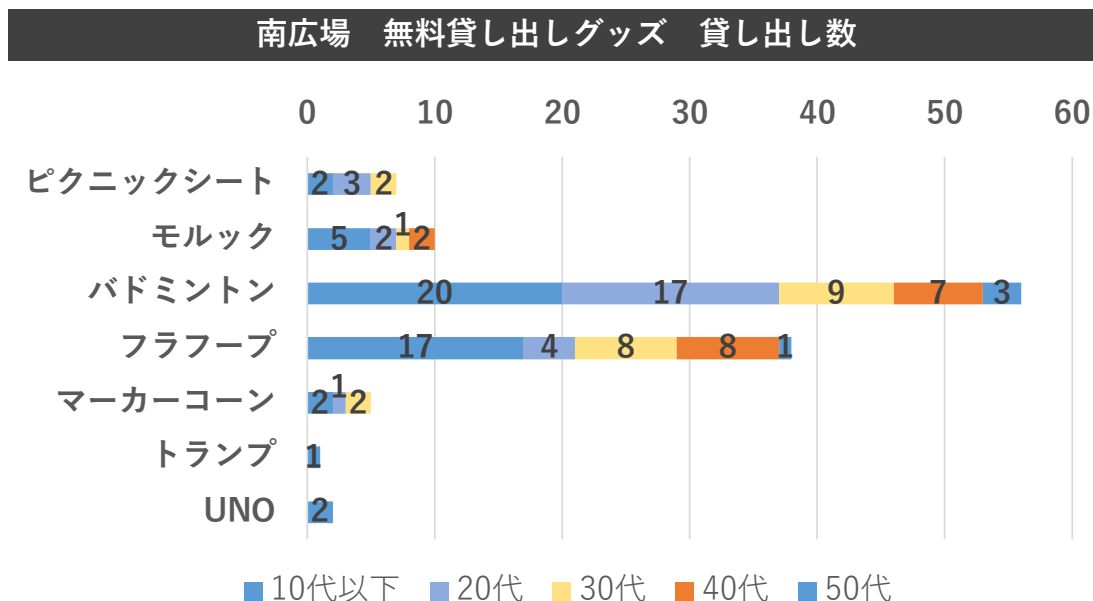
参考：南広場のゴミ放置と置きっぱなし運用の関係性

置きっぱなし運用実施日

夜間のゴミ放置が オープン時に発見された日	詳細
8/29 (金)	ゴミの放置
8/31 (日)	ゴミの放置 + スマホ台の傾き + 可動 イス・テーブル移動後放置
9/7 (日)	ゴミの放置
9/22 (月)	ゴミの放置 + ハイテーブルの移動
9/23 (水・祝)	ゴミの放置
9/29 (月)	ゴミの放置
10/1 (水)	ゴミの放置
10/12(日)	ゴミの放置
10/19(日)	ゴミの放置 + テーブルにたばこの消 し跡
11/2 (日)	ゴミの放置 + 可動イス・テーブル移動 後放置
11/3 (月)	ゴミの放置
11/4 (火)	ゴミの放置 + 割れビンの破片散乱

➡ 置きっぱなし運用をしていない日でもゴミ放置は発生しており、置きっぱなし運用とゴミ放置は相関がない

2-11 | 広場の日常利用を後押しするグッズの貸し出しサービスの検証



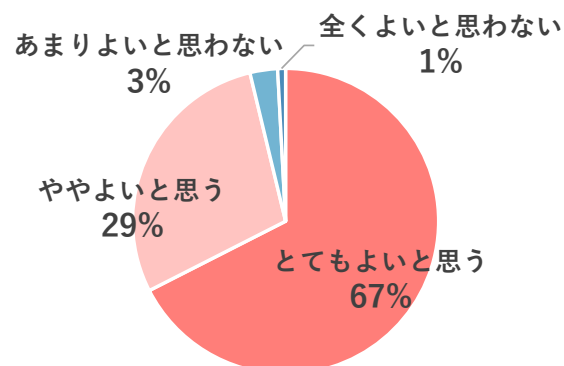
■ グッズの貸し出しサービスは、利用者層やアクティビティの多様化につながった

- グッズ貸し出しサービスは多く利用されており、「よい」が9割以上
- バドミントンなど芝生で遊ぶアクティビティの増加につながっていると考えられる
- 貸し出しノートには、特に記入欄を設けていないにも関わらず「楽しかった」など感想や感謝を伝えてくれる書き込みが多くみられた
- バドミントンのシャトルが上がった際のオペレーションや貸し出しグッズの利用マナー向上への対応は必要

2-12 | 中小規模イベントの日常的な開催/出店の検証（ブース設置など）

来場者：広場に出店があることへの印象

来場者アンケート（N=240）

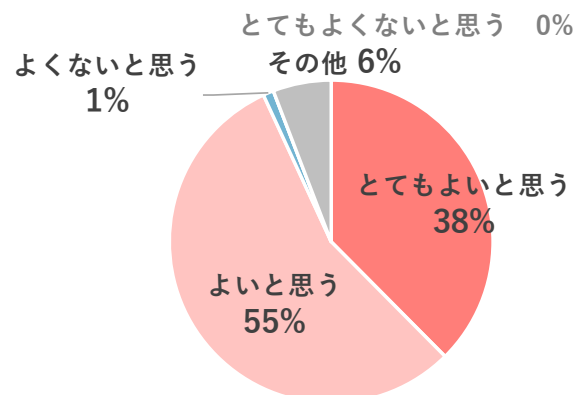


→（やや+とても）よいと思う：96%

ポジ意見例：「ゆっくりできる」「ないと寂しい」
ネガ意見例：「ゴミの散らかりが心配」

近隣：出店があると良いか

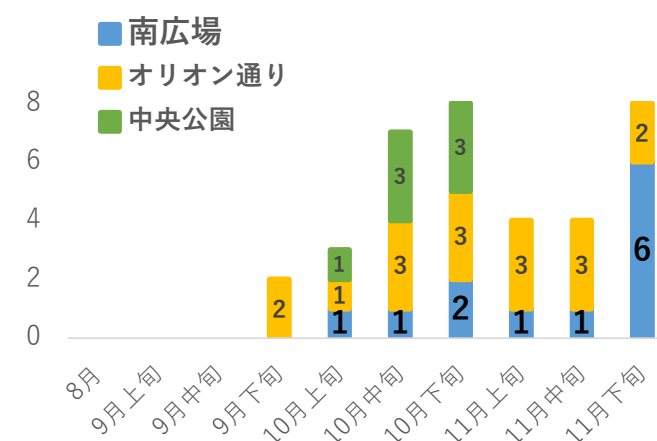
近隣生活者アンケート（N=212）



→（よい+とても）よいと思う：93%

その他：「認知が低い」「ゴミ処理問題が懸念」
「利用したい時間帯に使えない」など

会場別出店希望日



■来場者、出店者ともに出店に対するニーズがあることが確認できた

- 広場に店舗の出店があることに対して、来場者・一般・近隣生活者ともに9割以上がよい評価
- ある程度の出店ニーズが確認できた（実験期間中の出店希望12件、出店6件）

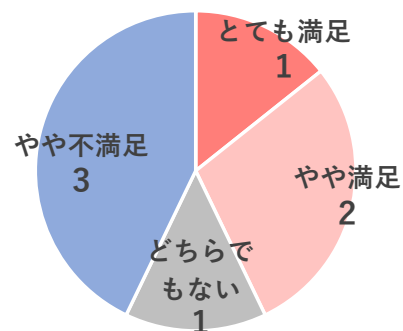
■芝生の広がりを活かしたイベント利用があった／活用できることの周知ができるとよい

- イベント利用として、鬼ごっこ（おしろらんどと連携）などがあった（実験期間中のイベント申請2件）
- カレーサミットなど複数の出店者によるイベントは来場者も多く、ニーズも高い

2-12 | 中小規模イベントの日常的な開催/出店の検証（ブース設置など）

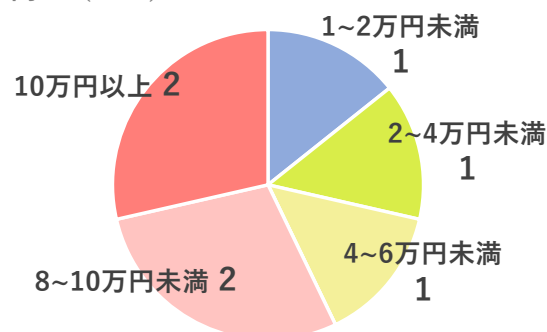
出店の満足度

出店者アンケート（N=7）



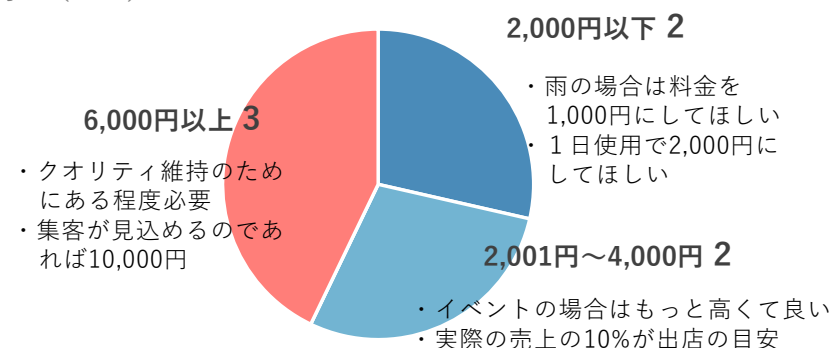
出店の売上金額（税込）

同左（N=7）



同様の場所・条件で出店する場合の出店料の許容上限

同左（N=7）



良かったこと

- ・運営のサポートが手厚かった
- ・会場設備が整っていて使いやすかった
- ・芝生広場や幕など会場の雰囲気が良く、イベント向きだった。

改善されると良いこと

- ・情報発信・広報が不足していた
- ・会場の場所が分かりづらい
- ・スタッフからのフォロー体制
- ・夏場の暑さ対策が必要
- ・設備(照明・テーブル・椅子)の増加が必要（将来的な課題）

■イス・テーブル、照明、芝生の開放感が出店場所として評価／広報・周知などが課題

- 出店者からはイス・テーブルが自由に使えること、照明があること、芝生の開放感などへの評価があった
- 今後の課題として、広報・周知、出店料の設定（今回程度を望む意見／出店者の質維持のため適切な設定を望む意見どちらもあり）、出店形態（複数出店があるとよいとの意見あり）などが挙げられている

2-12 | 中小規模イベントの日常的な開催/出店の検証

出店の募集概要／出店の様子	
利用可能日	火・土
利用可能時間	平日11:00 - 15:00 (設営10:00から 撤収16:00まで) 土曜日 9:00 - 21:00 (設営8:00から 撤収22:00まで)
利用料金	平日：2,000円／4時間まで 休日：2,000円／4時間 3,000円／全日
出店形態	①出店テーブル／②キッチンカー ※2 - 3店舗までグループ出店可能
出店者向け貸出什器	<div> <p>●出店テーブル 1,400mm×612mm×H900mm ※シェードの下に設置</p>  </div>
出店の様子	<div>  <p>出店テーブルを活用した出店</p> </div> <div>  <p>キッチンカーでの出店</p> </div>

■ 出店可能日や時間は、周辺施設や3会場の連携ができるとよい

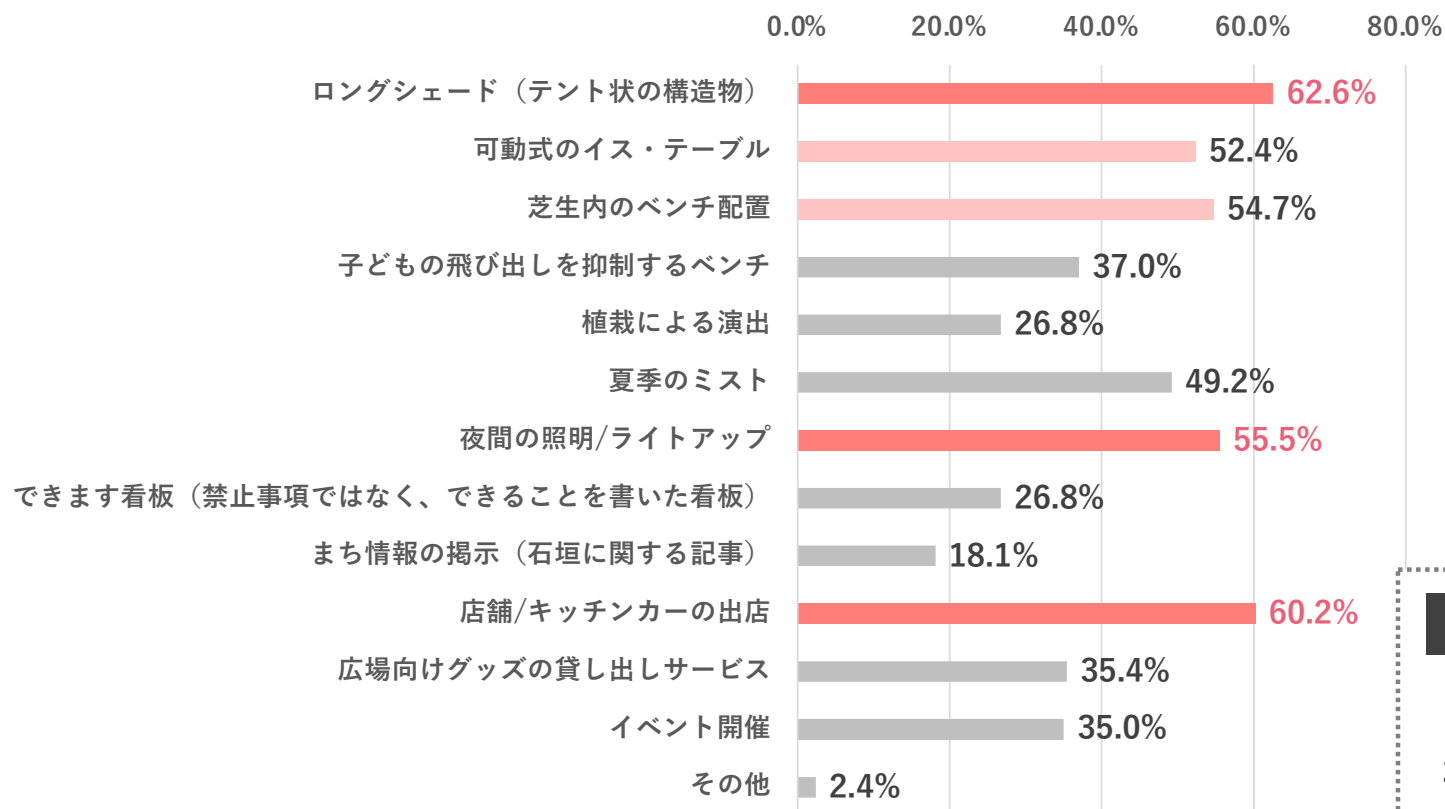
- 出店できる曜日や時間帯は自由度が高ければ高い方がよいが、現場対応コストとトレードオフであるため、その省力化が必要になる
- おしろらんどと上手く連携して集客につなげるため、おしろらんどのお休み日である火曜日の出店は避けた方がよいかもしれない
- ランチ時間だけでなく、おやつ時間の営業ニーズもあった
- まちなかの回遊につながるため、土曜日以外にも複数会場での出店が好ましい

■ 広さを活かした複数出店や、出店ブース周りの演出ができるとよい

- 出店ブースとキッチンカーの同時出店など、複数店舗出店を促したい
- 敷地が広く出店が目立ちにくいいため、出店の特別感やわかりやすさ等（のれん、イス・テーブルの配置など）が出せるとよい

2-13 | 今後も継続してほしいハード

来場者アンケート（N=234）



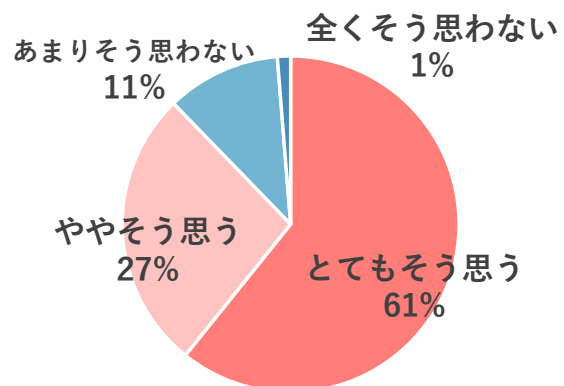
今後も継続してほしいもの

1位	ロングシェード	62.6%
2位	店舗/キッチンカーの出店	60.2%
3位	夜間の照明/ライトアップ	55.5%
4位	芝生内のベンチ配置	54.7%

2-14 | 文化財への愛着や理解の深化

甲府城や歴史文化への愛着が増すきっかけになる

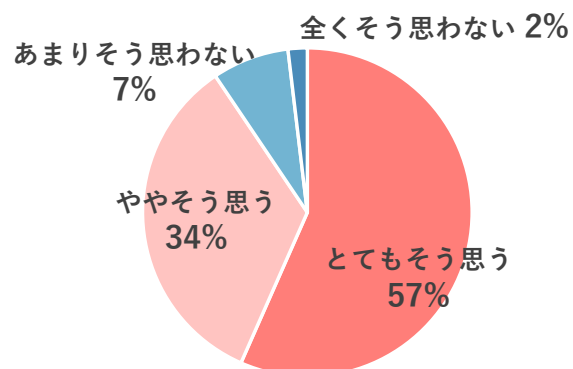
来場者アンケート (N=238)



➡ (やや+とても) そう思う：88%

石垣ライトアップにより甲府城や歴史文化への興味や愛着が増すきっかけになる

石垣ライトアップアンケート (N=53)

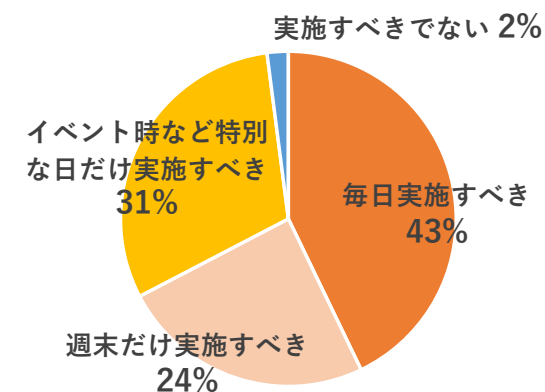


➡ (やや+とても) そう思う：91%

石垣ライトアップ

石垣ライトアップを継続的に実施した方が良いか否か

同左 (N=53)



■南広場で過ごす時間が歴史文化への愛着が増すきっかけになった

- 今回つくった空間について 9割近くが甲府城や歴史文化への愛着を増すきっかけになると回答

■石垣のライトアップ照明は、魅力の演出、甲府城など歴史文化への興味や愛着につながる可能性が高い

- 約9割が 石垣の魅力演出や甲府城など歴史文化への興味や愛着につながると回答
- 継続的な実施については、毎日、週末やイベント時に限定して実施を望む声がそれぞれ多く、今後の検討が必要

3. オリオン通り

お店と滞留空間のセットになった、路上出店コーナーのある通りとして人気

来場者・近隣生活者ともに9割以上が、この通りに出店とライトアップがあることを望んでいた。また、ゆったりとした滞留空間があることも評価が極めて高かった。

① ハード

- ◎ イス・テーブルによる滞留空間へのニーズを確認（量的にはもう少し増やしてもよく、可動イス・テーブルの方がより好まれる可能性が考えられる）
- ◎ 照明による演出の効果大
- ◎ 来場者・出店者の双方から出店を望む声が多く、実際に出店されたお店の売上もよい
- ✓ 残る課題は、出店ブースの雨天対策やトイレ等の出店周りの環境整備

② 利活用/運営

- ◎ 固定ベンチ・テーブルは日常的な管理は不要であり、持続性に問題なし
- ◎ 寺崎コーヒーさんが、お店の前の可動イス・テーブルの設置管理を申し出てくださった
- ✓ 可動イス・テーブルを置きっぱなしで運用することについては、継続検討が必要
- ◎ 日常的な出店ニーズがあり、出店者調整をAPが行うことは可能だが、持続させるためには現場対応等の省力化策が重要となる
- ✓ 掲示板の管理運営については継続検討

3-1 | オリオン通りPJの目指すゴール ～甲府まちなか未来ビジョン2025での位置付け～

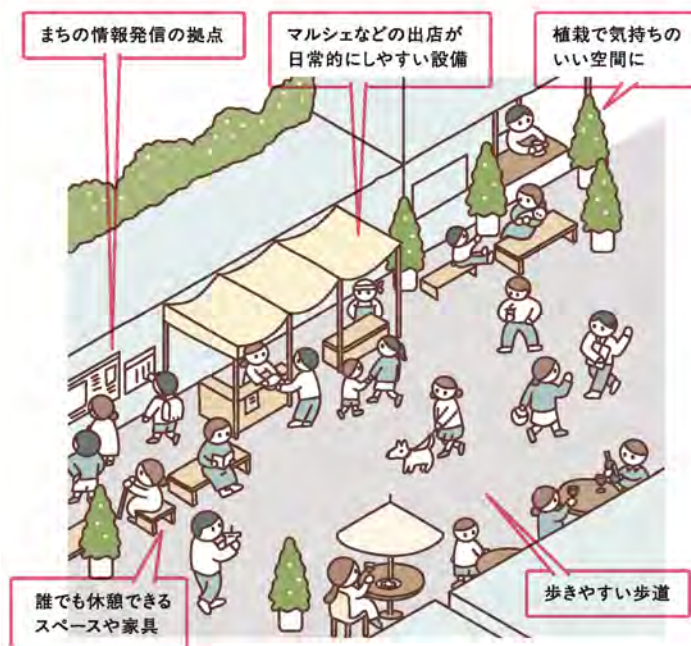
目指すゴール：① 市・再開発によるハード整備、② APによる日常的な利活用/運営 によって魅力的な道を実現すること

わざわざこの道を歩きたくなる、
個性が集まり輝く「ウォークブル」な通り道

駅周辺から南側の商業地へつながる大事な動線として歩行者が主役でいられる通り、わざわざ寄り道をしたくなる通り、まちなかを歩いて回遊するきっかけとなる通り

将来イメージ

※このイラストは、あくまでもイメージを示したものであり、実際の計画ではありません。



図出典：甲府まちなか未来ビジョン2025

将来イメージを具体化すると… これらがあるとよいのでは？

① ハード

- イスやテーブルなどの滞留空間
- マルシェや一店舗出店など、出店の負荷を下げる設備
- 夜も魅力的かつ安心できる照明
- 掲示板の設置
- 不適切行為を抑制する工夫 など

② 利活用/運営

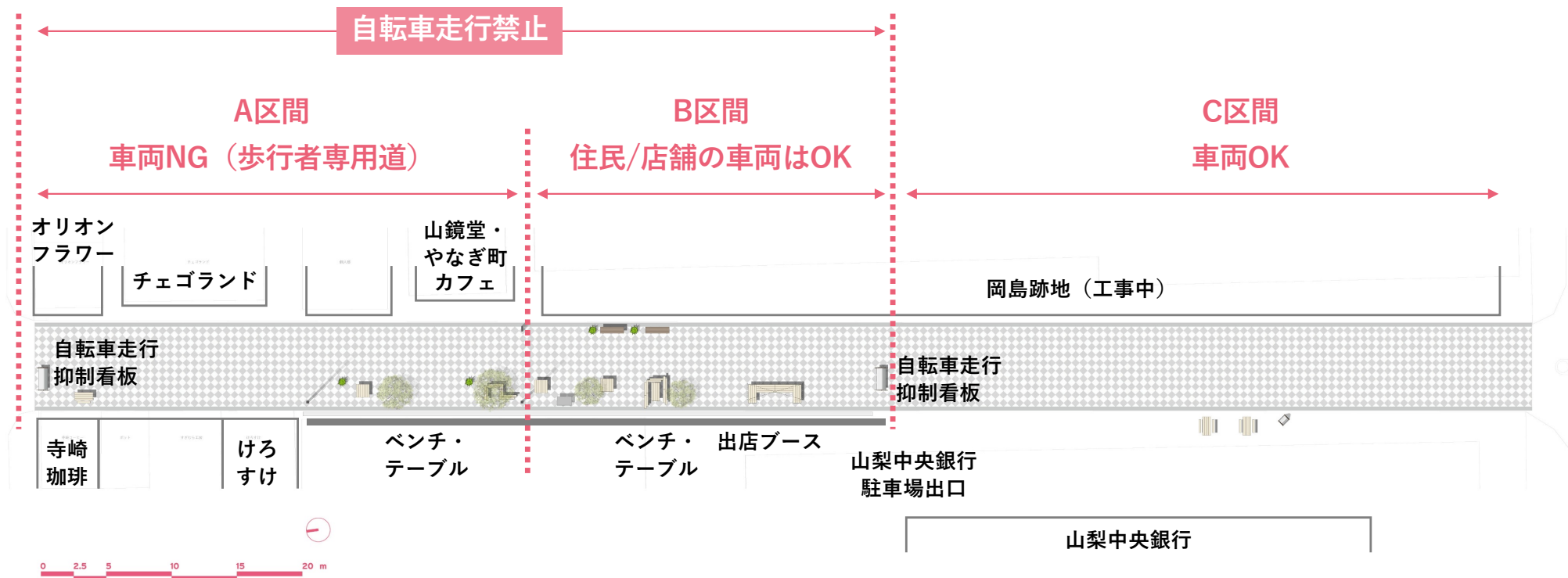
- イスやテーブルなどの滞留空間の持続可能な管理運営
- 掲示板の持続可能な管理運営
- 日常的な出店 など

3-2 | 社会実験の検証項目と、空間デザインや利活用/運営の考え方

2024年度の社会実験では可動イス・テーブルを設置したが、交通管理者である警察からの指導により、毎晩それらを一箇所に固めてネットをかける「クローズ作業」を、翌朝それを展開する「オープン作業」を行っていた。この方法では管理コストがかさんで自走できないため、イス・テーブルを置きっぱなしで運用するための第一歩として、固定のイステーブルを設置し、夜間にどのような問題が起きるのかを観察することとした。これに加え、昨年度好評だった出店や、昨年度未実施の照明設置を行なった。

今年度の社会実験で検証するポイント		空間デザインや利活用/運営の考え方
① ハード	● イスやテーブルなどの滞留空間	➤ 山梨中央銀行の駐車場壁前のイス、テーブルの設置 ➤ 山梨中央銀行の植え込み周りの滞留空間づくり
	● 夜も魅力的かつ安心できる照明	➤ 仮設照明の設置
	● 不適切利用の抑制	➤ 自転車走行抑制のためのサインの設置
② 利活用 /運営	● イスやテーブルなどの滞留空間の持続可能な管理運営	➤ 固定ベンチ・テーブルとし、管理の手間を最小化
	● 日常的な出店	➤ 店舗/キッチンカー出店の公募/とりまとめを実施

3-3 | 空間デザイン



自転車走行抑制看板



ベンチ・テーブル



出店ブース



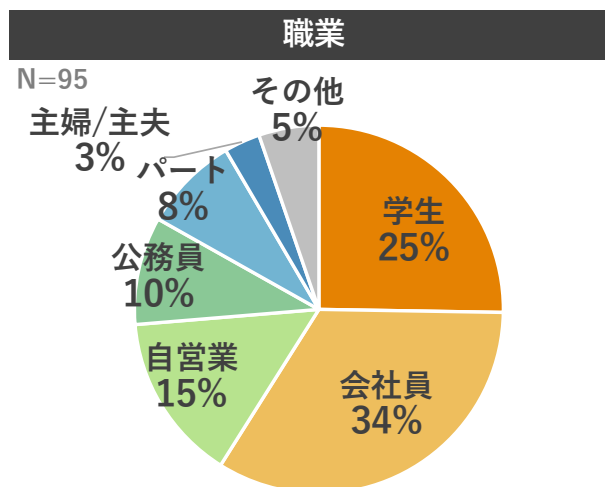
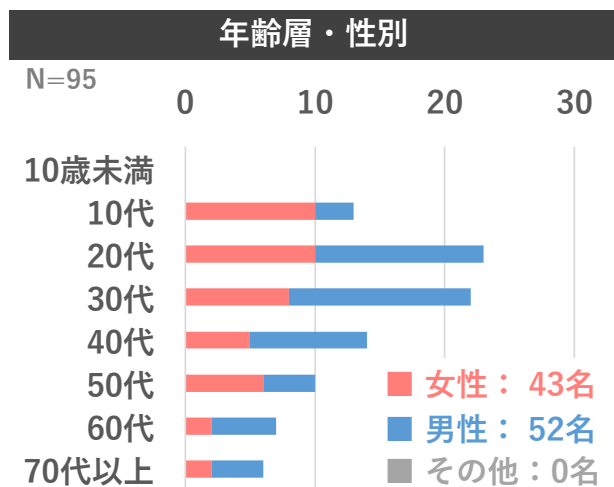
歩行者動線を確保した空間デザイン



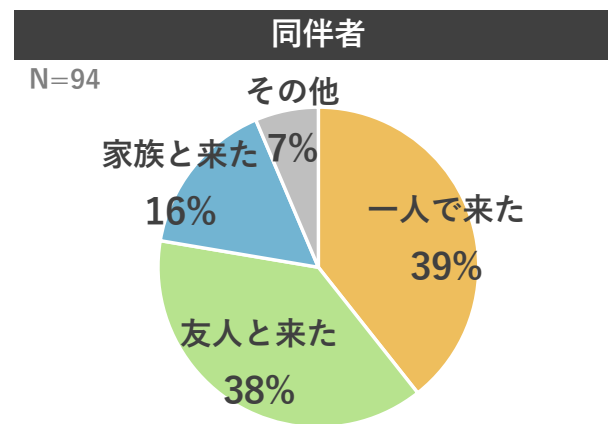
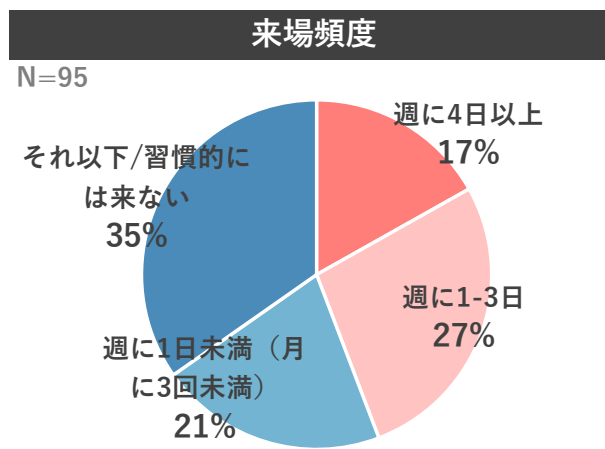
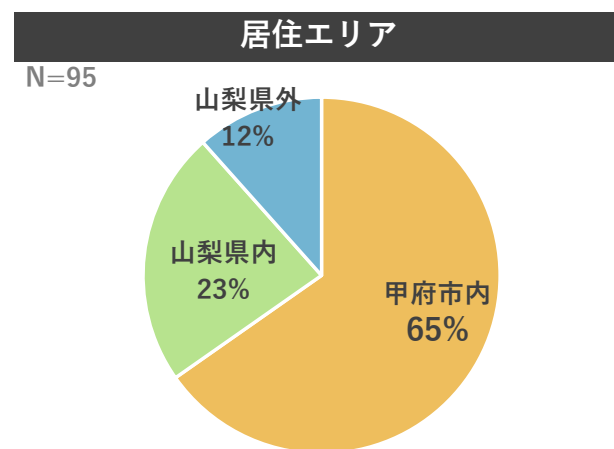
3-4 | 社会実験中の様子



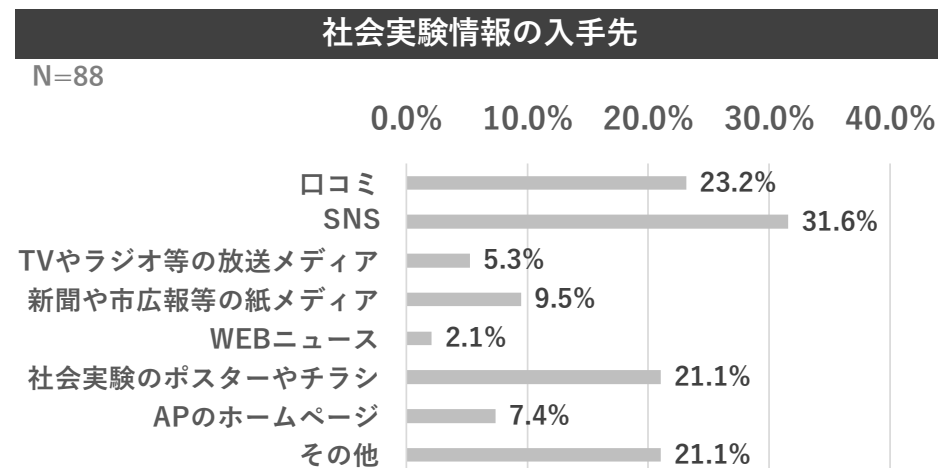
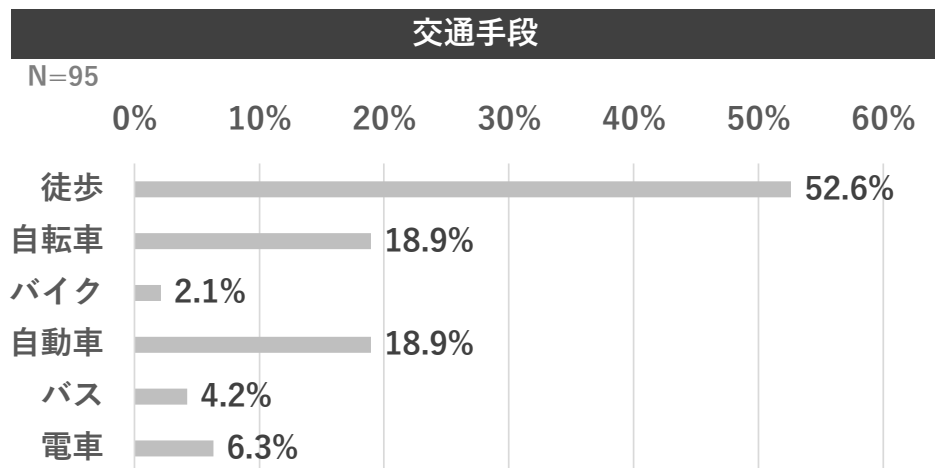
3-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=95 / 紙：41 WEB：54）



- 20～30代の若者、学生や会社員を中心に幅広い世代が利用
- 甲府市内、習慣的に来る層の利用が多い
- 一人での利用・友人との利用が多い



3-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=95 / 紙：41 WEB：54）



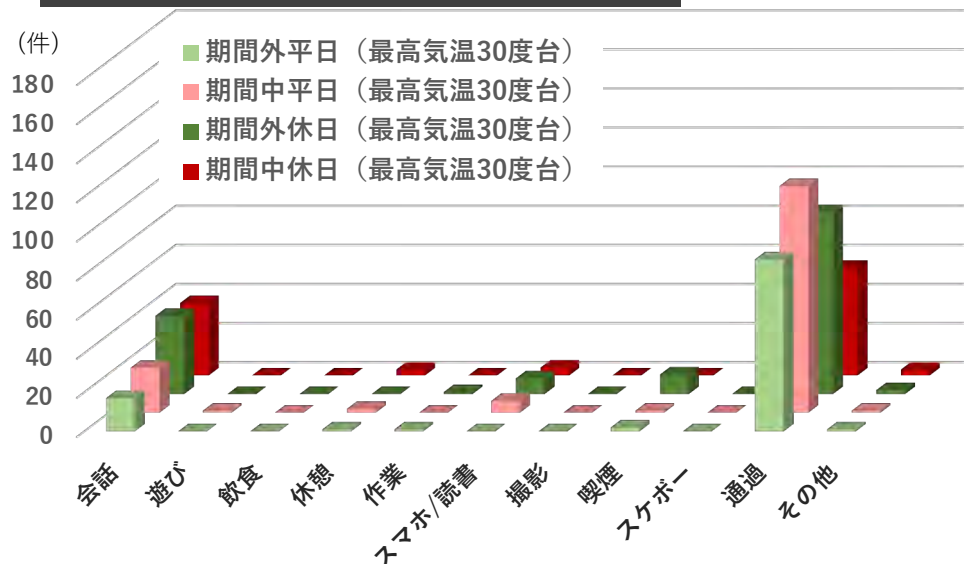
その他：「通りすがり」

- 徒歩で訪れる人が半数だが、自転車、自動車での利用も多い
- その他は通りすがりであり、日常の延長で利用していた方が多い
- 情報発信媒体は、SNSが最も多く、次いで口コミ、ポスターで情報を得た人が多い

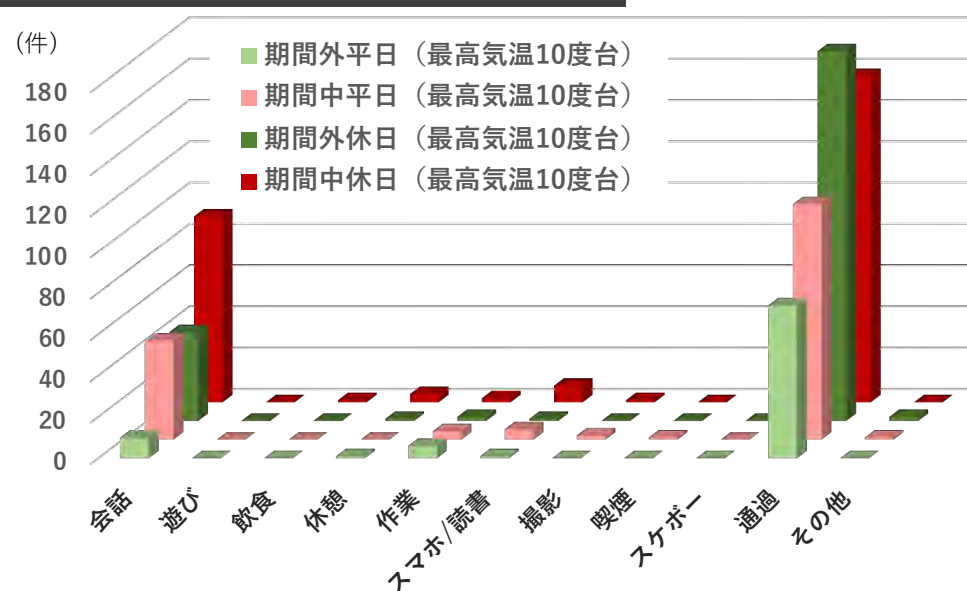
3-6 | イスやテーブルなどの滞留空間（中央銀行の軒先も含む）

期間内外の1日（8-22時）あたりのアクティビティ量

7月上旬～9月上旬（最高気温30度台）



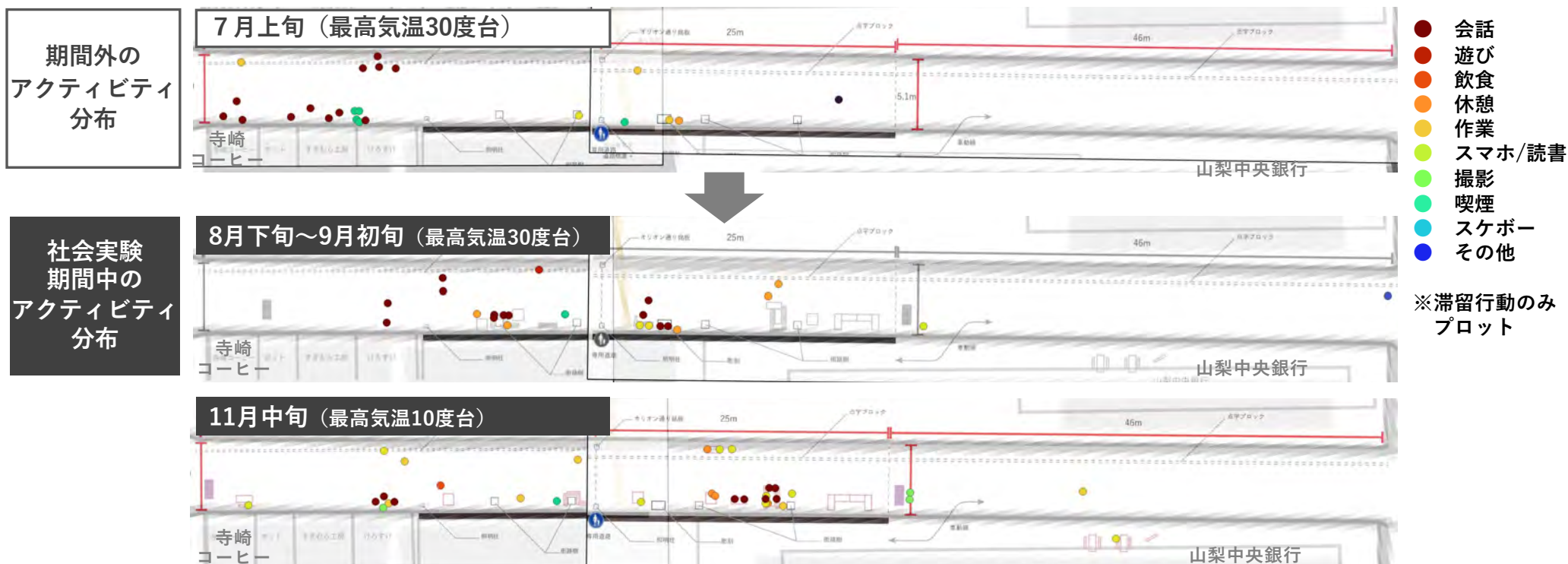
11月中旬～12月初旬（最高気温10度台）



■夏の暑い時期はアクティビティに大きな変化はなく、冬の寒い時期は滞留が増加した

- 元々人通りが多く、アクティビティは「通過」が多い
- 夏の暑い時期は、社会実験の前と最中でアクティビティはあまり変わらない
- 冬の寒い時期は、社会実験中に滞留者が増加し、特に「会話」が増加

3-6 | イスやテーブルなどの滞留空間（中央銀行の軒先も含む）



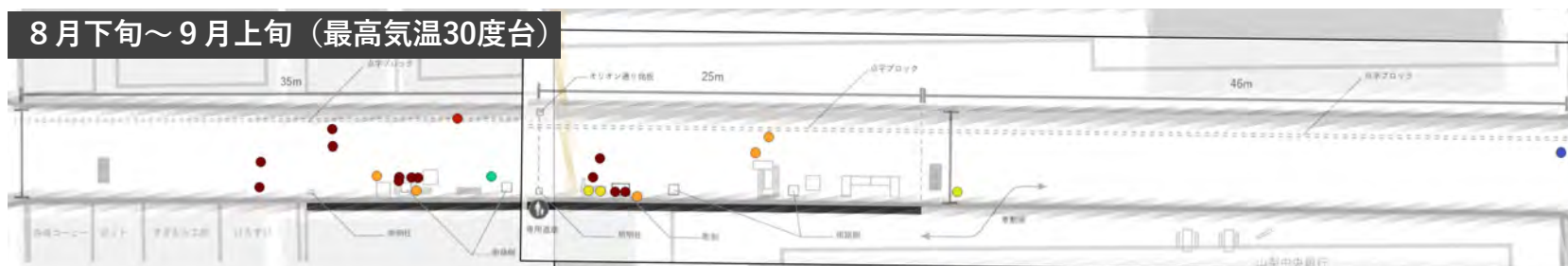
■ 社会実験で設置したベンチ・テーブル周りを中心に、通りに滞留者が分布

- 社会実験期間外は北側店舗前に集中していたアクティビティが、社会実験期間中はファニチャー周りを中心に通り全体に広がっていった。山梨中央銀行の軒先でも会話などをする様子がみられた。
- ただし、車両通行のあるC区間は滞留者は確認できなかった

3-6 | イスやテーブルなどの滞留空間（中央銀行の軒先も含む）

社会実験期間中のアクティビティ分布 季節の変化

8月下旬～9月上旬（最高気温30度台）

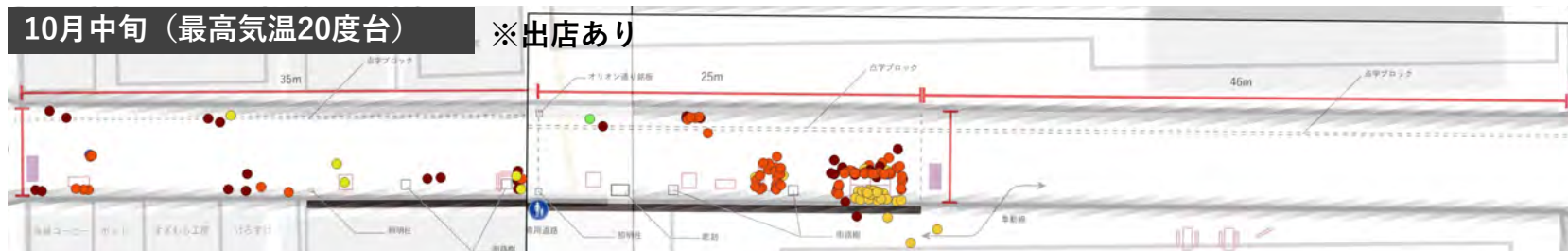


- 会話
- 遊び
- 飲食
- 休憩
- 作業
- スマホ/読書
- 撮影
- 喫煙
- スケボー
- その他

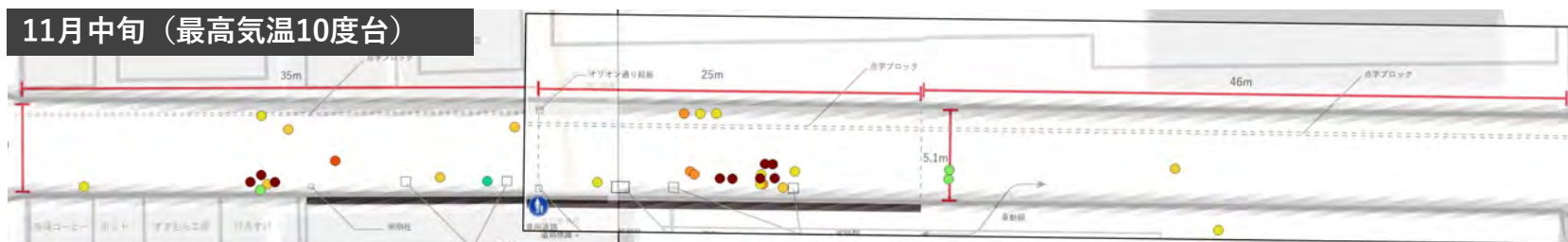
※滞留行動のみ
プロット

10月中旬（最高気温20度台）

※出店あり



11月中旬（最高気温10度台）

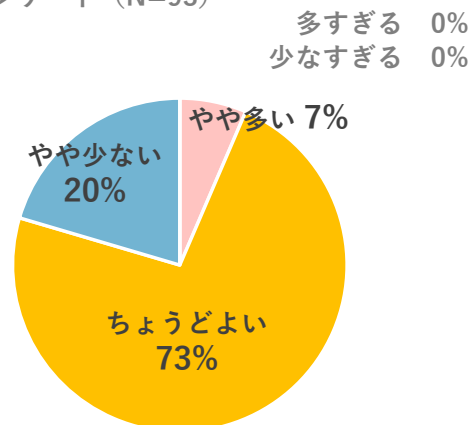


- 出店があったこともあり、最も過ごしやすい気候である最高気温が20度以上の時期がアクティビティが多く、出店ブース周りや近くのイス・テーブルの利用が多い

3-6 | イスやテーブルなどの滞留空間（中央銀行の軒先も含む）

滞留空間の広がりや イス・テーブルの量への印象

来場者アンケート（N=93）

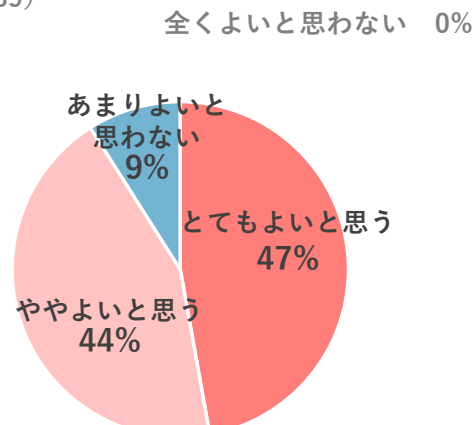


→ ちょうどよい：73%

意見例：「座っていいかわからない」「道路を邪魔しない程度の量が良い」「少し荷物を置く場所がほしい」

山梨中央銀行の軒先にも 滞留空間を設けることへの印象

同左（N=89）

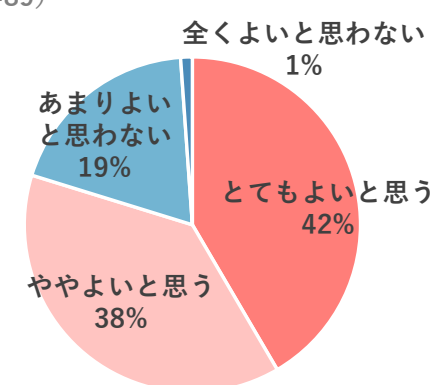


→（やや+とても）よいと思う：91%

意見例：「防犯上避けるべき」「気付かない」

可動イス・テーブルも あった方がよいと思うか否か

同左（N=89）



→（やや+とても）よいと思う：80%

意見例：「バリアフリーの観点から可動が良い」「固定の方が安心する」「秩序の乱れ、居心地の悪さに繋がる」

■ イス・テーブルなどの滞留できる空間があることへの高いニーズが確認できた

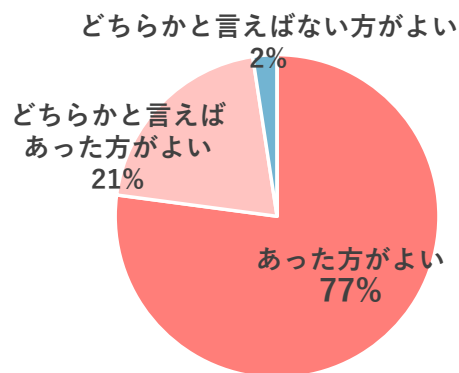
- イス・テーブルはちょうどよいという意見が7割以上だが、さらに増やしてほしい意見も2割程度ある。
また、可動イス・テーブルの設置を望む意見も8割以上であるなど、滞留空間へのニーズが高い。
- 山梨中央銀行の軒先への滞留空間を設けることについては、9割以上がよいと思うと回答。

3-7 | 夜も魅力的かつ安心できる照明

通りのライトアップはあった方が 良いか否か

来場者アンケート (N=83)

ない方がよい 0%



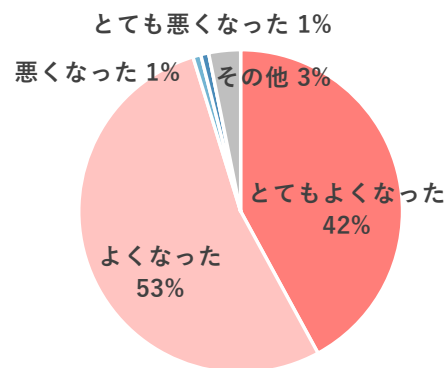
➡ (どちらかといえば+あった方が)
あった方がよい：98%

ポジ意見例：「安全だから」「通りやすい雰囲気」「写真映える」

夜間照明への印象

近隣生活者アンケート (N=126)

変わらない 0%



➡ (よく+とても) **よくなった：95%**



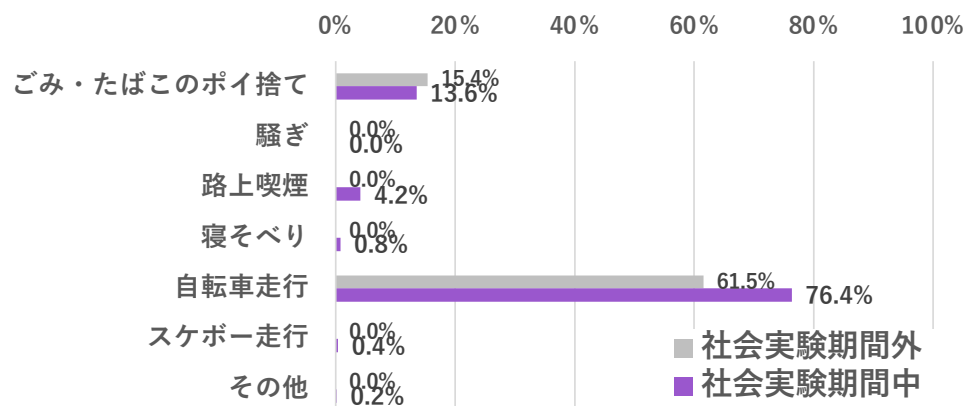
夜間出店の様子

■夜間照明は、通りの印象向上や夜の出店につながった

- 通りのライトアップはあった方がよいが、来場者、一般、近隣生活者ともに9割以上
- 夜間の出店も8件あり、飲酒を含む出店形態や出店ニーズが多かった

3-8 | 不適切利用の抑制（自転車走行、イス・テーブル配置の省力化など）

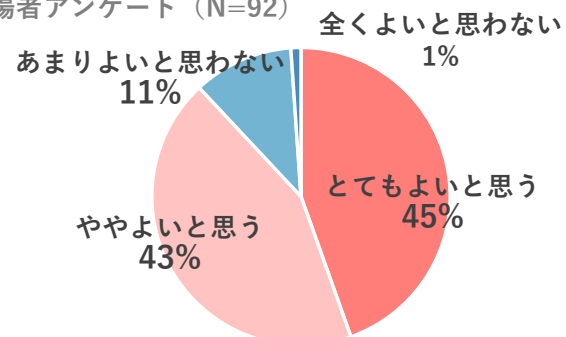
社会実験期間中・期間外の不適切行為数の比較



※1時間に1回の会場巡回中に不適切行為に遭遇する頻度を表しています。

自転車押し歩き推奨看板への印象

来場者アンケート (N=92)



→ (やや+とても) よいと思う : 88%

ポジ意見例：「安心して歩ける空間にすべき」

ネガ意見例：「自転車を降りたくなる仕掛けが必要」

■ 自転車走行はやや増加／押し歩き推奨看板は良い印象

- ごみ・たばこのポイ捨ては微減
- 自転車走行は、通勤・通学時間を中心に社会実験に関わらず多く、社会実験中は走行数がやや増加
- 自転車押し歩き推奨看板は、9割近くがよい印象

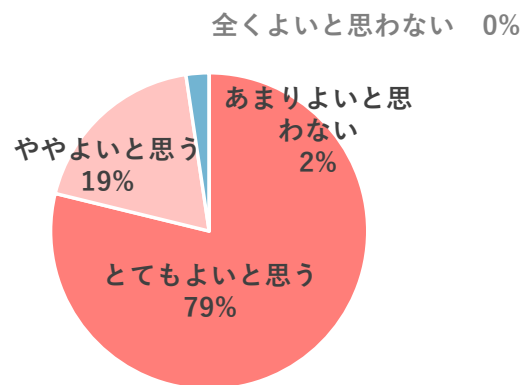
■ イス・テーブル配置の省力化に向けた検証は継続確認中

- 今回設置した固定ベンチ・テーブルの夜間の利用状況（マナー）について、防犯カメラ映像を継続確認中

3-9 | 日常的な出店

店舗の出店があることへの印象

来場者アンケート (N=85)

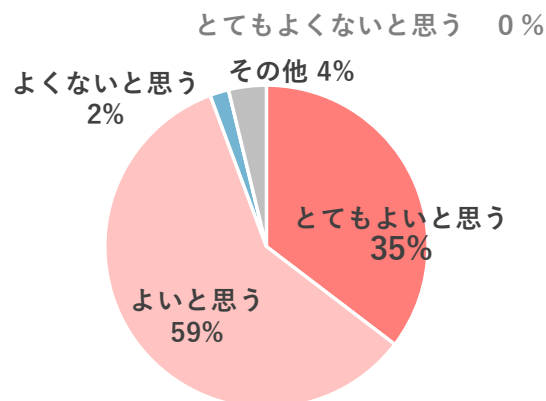


→ (やや+とても) よいと思う : 98%

ポジ意見例: 「活気が出る」「出会いのきっかけになる」
「駅と飲み屋街をつなぐ結節点だから」

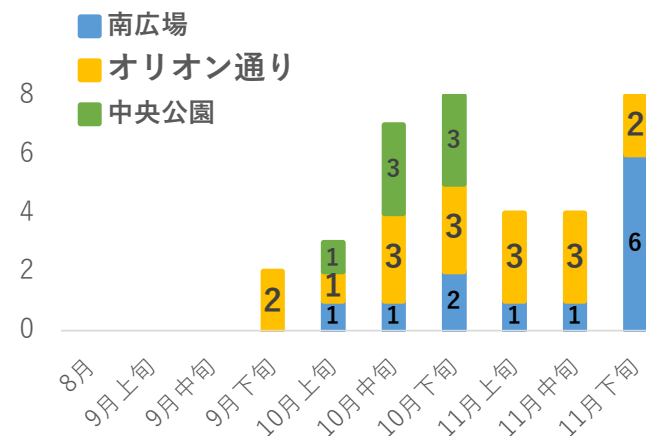
出店があると良いか

近隣生活者アンケート (N=212)



→ (よい+とても) よいと思う : 94%

会場別出店希望日



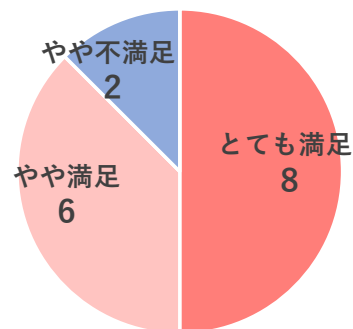
■来場者、出店者ともに出店に対する高いニーズがあることが確認できた

- 通りに店舗の出店があることに対して、来場者は10割近くがよい評価
- 出店ニーズは3会場中最も高く、6割がオリオン通りでの出店であった（実験期間中の出店希望17件、出店16件）

3-9 | 日常的な出店

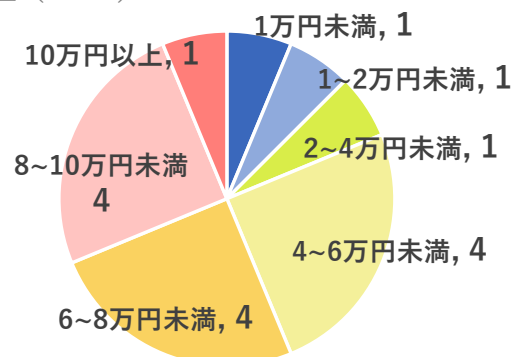
出店の満足度

出店者アンケート (N=16)



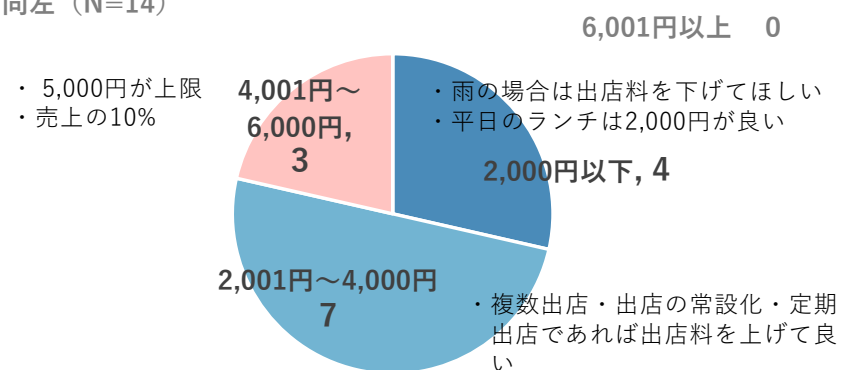
出店の売上金額 (税込)

同左 (N=16)



同様の場所・条件で出店する場合の出店料の許容上限

同左 (N=14)



良かったこと

- ・ 会場デザイン・設備が使いやすかった
- ・ 雰囲気良く、人の動きが出店と相性が良い
- ・ スタッフのサポートが手厚く安心できた
- ・ 出店しやすい仕組み・条件
- ・ 今後の可能性を感じられる場所だった

改善されると良いこと

- ・ 情報発信・広報が不足していた
- ・ 雨天・日差し・気候への対策が不十分
- ・ 出店時間・撤収時間の設定が実態と合わない、出店手続きのわかりにくさ
- ・ 設備・環境の不足、什器やレイアウトの安全性の配慮
- ・ 出店数が少ない日のにぎわいづくり

■ 出店場所やブースのデザインが好評価、雨天時対策などが今後の課題

- 出店者からは、出店ブースのデザイン、場所の良さ、告知補助があることなどへの評価があった
- 売上は、MIN 2,900円~MAX 115,000円と幅広いが、平均は約60,000円であった
- 今後の課題として、特に雨天時の対策が多く、その他（排水溝のにおい対策、トイレの近さ、出店料の設定（今回程度~4,000円以下を望む意見が多い）、出店形態（1店舗出店/複数出店）などが挙げられている

3-9 | 日常的な出店

出店の募集概要／出店の様子	
利用可能日	水・土
利用可能時間	平日11:00 – 15:00 (設営10:00から 撤収16:00まで) 土曜日 9:00 – 21:00 (設営8:00から 撤収22:00まで)
利用料金	平日：2,000円／4時間まで 休日：2,000円／4時間 3,000円／全日
出店形態	①出店テーブル／②キッチンカー ※2 – 3店舗までグループ出店可能
出店者向け 貸出什器	<div> <p>●出店テーブル 1,400mm × 612mm × H900mm ※出店時は屋根幕を設置</p>  </div>
出店の様子	<div>   </div> <p>出店テーブルを活用した出店</p>

■雨対策や今後の運用に向けた設えの検討ができるとうい

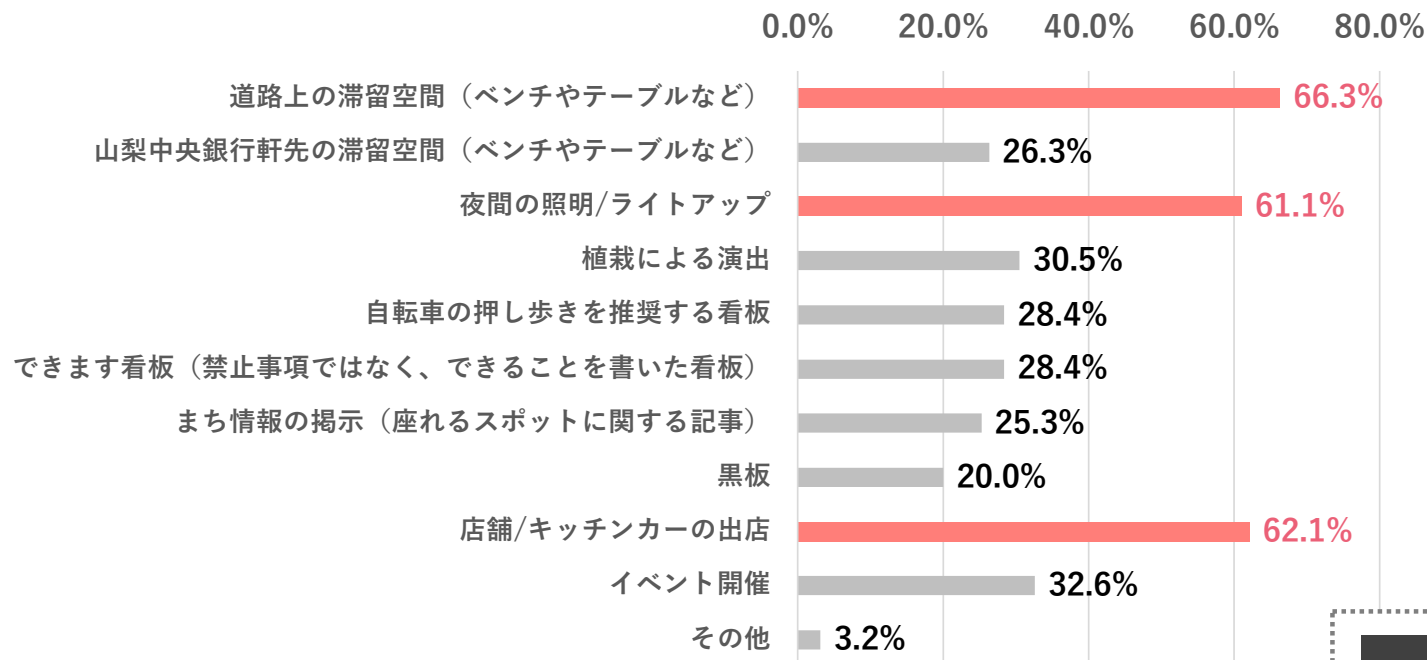
- 今回は出店テーブルの大きさが1店舗分しかなかったため、今後は複数で出店できるようにスペースの大きさの見直し余地がある
- 雨対策、什器のレイアウトについて、今後工夫ができるとうい
- 保健所をクリアできるしつらえができればよい(屋根＋三方幕＋給排水)

■人通りの多さなど、空間のポテンシャルにあった出店がされるとよい

- 気候や天気により、その場での食事が難しい場合もあるため、テイクアウトや食べ歩き対応できるものが出店されるとよい
- 一店舗出店は場所に合っており、他にも人通りの多さを活かしたチャレンジが出来るとよい

3-10 | 今後も継続してほしいハード

来場者アンケート（N=85）



今後も継続してほしいもの

- | | | |
|----|--------------|-------|
| 1位 | 道路上の滞留空間 | 66.3% |
| 2位 | 店舗/キッチンカーの出店 | 62.1% |
| 3位 | 夜間の照明/ライトアップ | 61.1% |

4. 中央公園

ストリートスポーツ利用と一般利用が共存する公園の実現可能性を確認

スケートボードなどのストリートスポーツができる空間があることについて、来場者の96%が肯定的であり、一般利用と空間の棲み分けをしたことで、一般利用者の約9割が安心感と快適性を感じた。また、夜間照明への評価が高く、来場者の100%、近隣生活者の94%が好評価した。

① ハード

- ◎ ストリートスポーツ利用と一般利用の幸せな両立は可能であることを確認
- ◎ 照明による演出の効果大
- ◎ 不適切行為の抑制に成功
- ✓ カラスとの棲み分けや、蚊の大量発生が課題

② 利活用/運営

- ◎ わかりやすい運営時間表記（21:30まで）によりマナー遵守が進み、騒音に関するクレームがなくなった
- ◎ グッズの貸し出しサービスは好評であった
- ✓ 整備後のグッズ貸し出し運営体制は要検討
- ◎ 可動イス・テーブルについては、毎日出し入れをせず、置きっぱなしにしても問題がないことが確認された
- ◎ 出店の調整をAPが行うことは可能だが、持続させるためには現場対応等の省力化策が重要
- ✓ 出店ニーズについては要継続検証

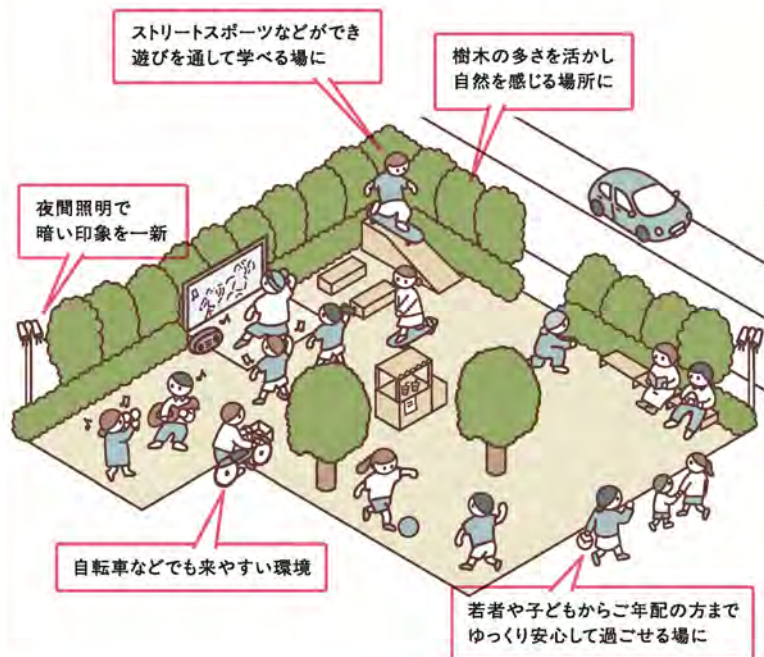
4-1 | 中央公園PJの目指すゴール ～甲府まちなか未来ビジョン2025での位置付け～

目指すゴール：① 県によるハード整備、② APによる日常的な利活用/運営 によって目的性の高い公園を実現すること

人生を豊かにする遊びと学びの場、 「プレイヤブル」な森林公園

将来イメージ

※このイラストは、あくまでもイメージを示したものであり、実際の計画ではありません。



図出典：甲府まちなか未来ビジョン2025

緑に恵まれた健やかな環境の下、若者たちが身体を動かして遊べる場を持つことを通じて、人と人の交流が生まれ、その場にいる人々が楽しみを学び合えるようなプレイパーク

将来イメージを具体化すると… これらがあるとよいのでは？

① ハード

- ストリートスポーツ（スケボー、ダンス他）ができるしつらえ
- ストリートスポーツ利用者と一般利用者が幸せに共存できる場づくり
- 夜も魅力的かつ安心できる照明
- 豊かな緑の適切な維持管理（鳥や虫と共生できる環境）など

② 利活用/運営

- ストリートスポーツ利用のマナーの維持
- ストリートスポーツのグッズ貸し出しサービス（スケボー等）
- 日常的な出店 など

4-2 | 社会実験の検証項目と、空間デザインや利活用/運営の考え方

2024年度の社会実験では舞鶴通り側に大きな日除けテントを設置したが、舞鶴通りとの段差が死角となり、ゴミ放置や什器を乱暴に扱うなどの不適切利用が把握された。また、県の整備計画では東側に東屋を整備するイメージとなっていた。そのため、今年度は東側に日除けを配置することを念頭に置いた。昨年度未実施だった夜間照明を追加するとともに、イベント/出店などの運用面の検証に取り組んだ。

今年度の社会実験で検証するポイント		空間デザインや利活用/運営の考え方
① ハード	● 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間づくり	➤ ストリートスポーツ利用と一般利用のエリア分け ➤ ルールや注意事項の明記など
	● 夜も魅力的かつ安心できる照明	➤ 仮設照明の設置
	● 不適切利用の抑制	➤ 不適切利用の観察調査を実施
	● カラス/蚊対策	➤ 各種予算内で実施可能な対策を実施
② 利活用/運営	● ストリートスポーツ利用のマナーの維持	➤ 利用ルールの掲示 ➤ 音の出る行為の時間帯の検証
	● 居心地のよい日陰のための可動イスの管理	➤ 可動イス・テーブルの置きっぱなし運用を試行
	● ストリートスポーツのグッズ貸し出しサービス（スケボー等）	➤ グッズ貸し出しサービスの運営 ➤ 「できます看板」の設置
	● ストリートスポーツ教室	➤ ストリートスポーツ教室のニーズ把握
	● 日常的な出店	➤ 店舗/キッチンカー出店の公募/とりまとめを実施

4-3 | 空間デザイン



既存ベンチ



可動イス・テーブル



セクション



ダンスマット



ミラー&収納



丸太イス



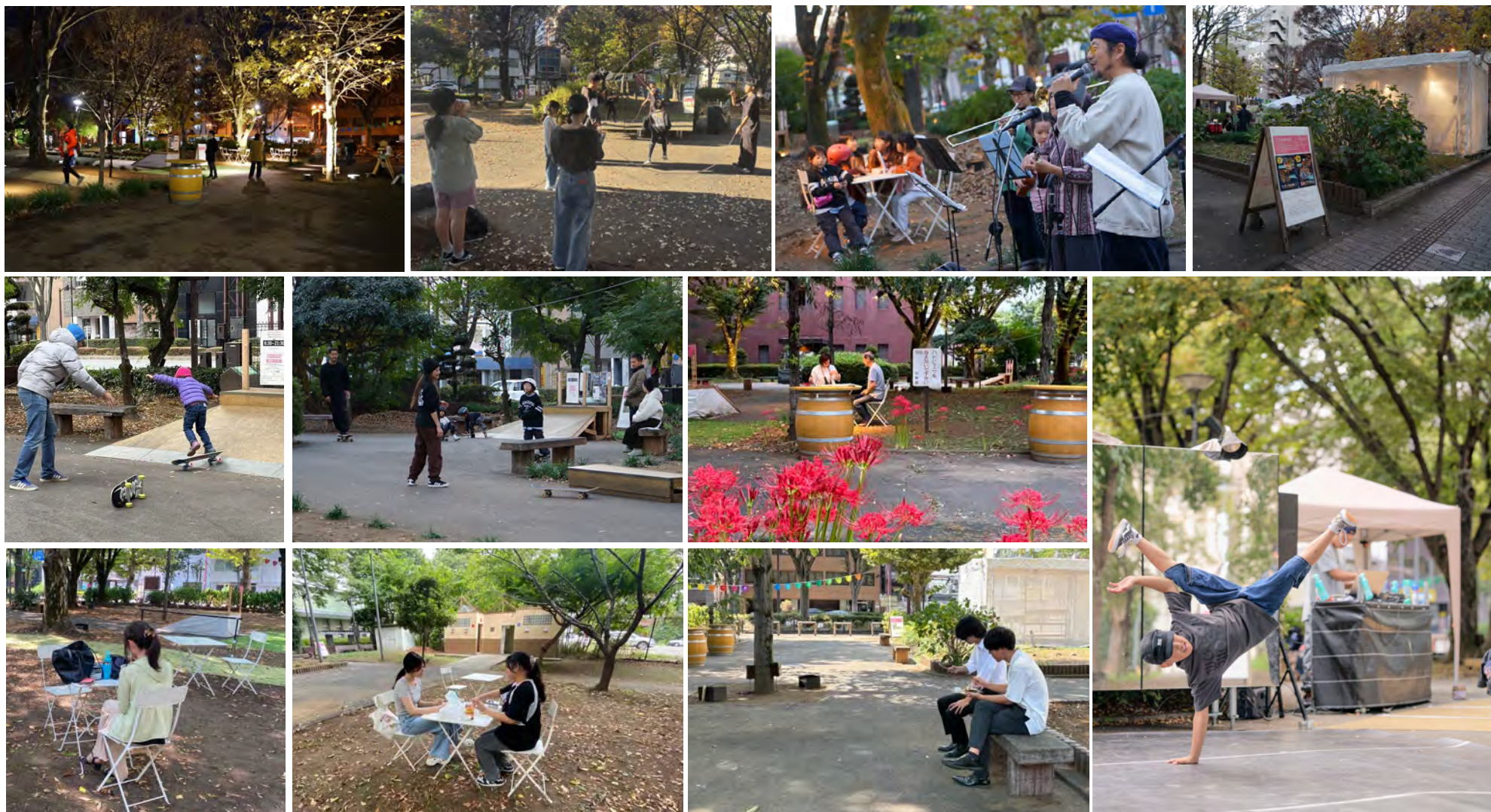
DJブース



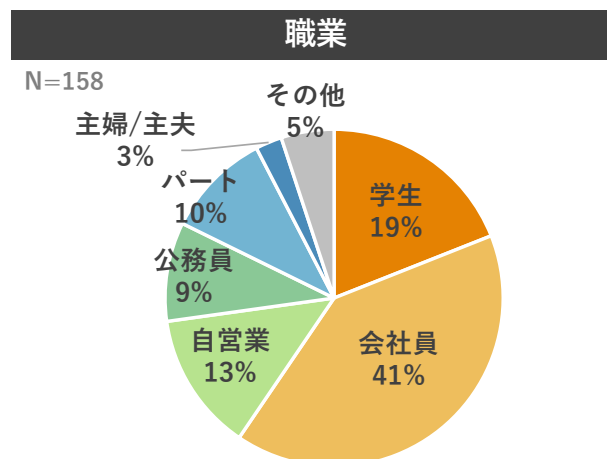
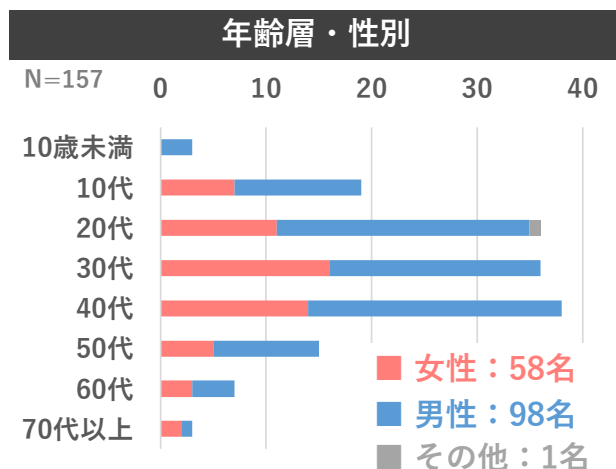
仮設ブース



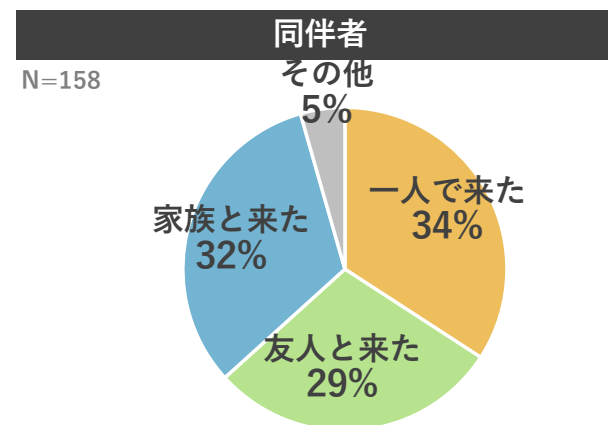
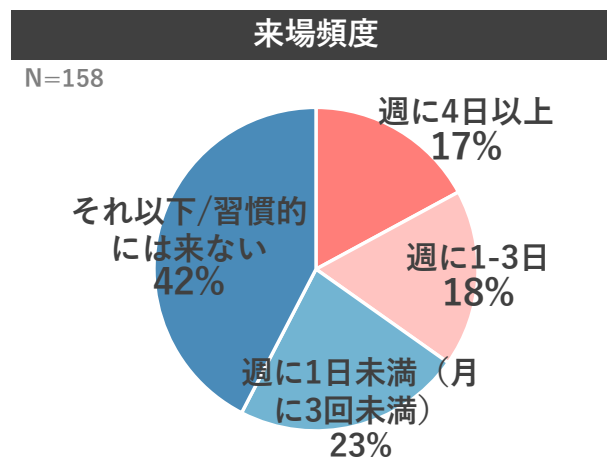
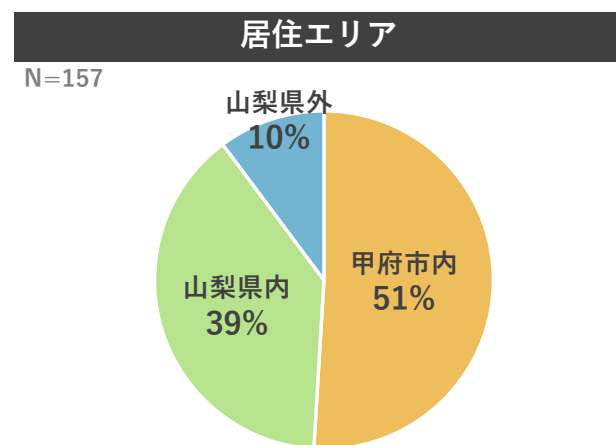
4-4 | 社会実験中の様子



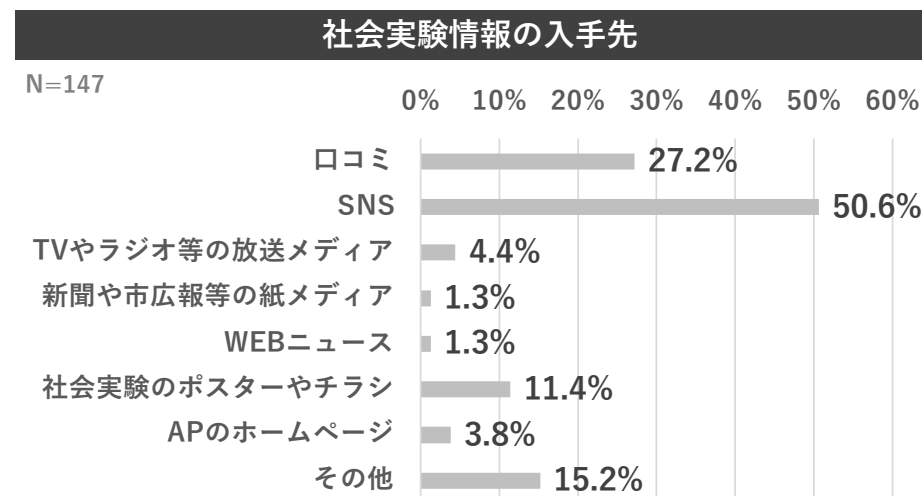
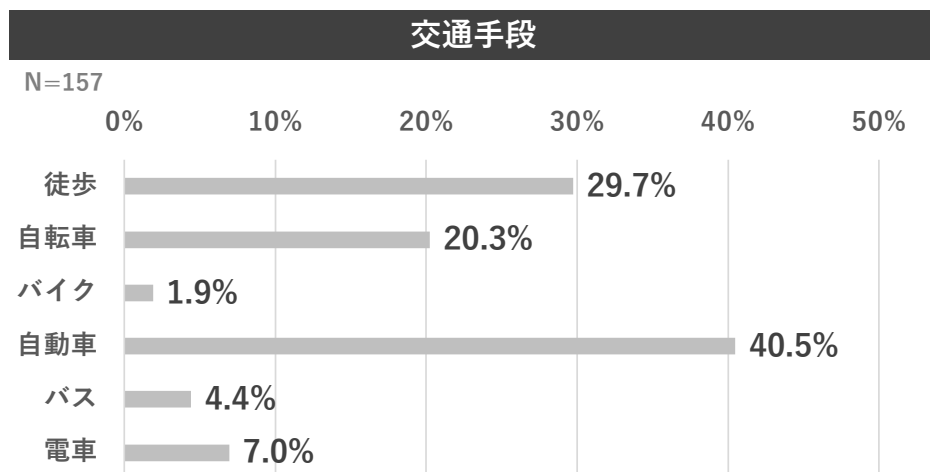
4-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=158 / 紙：109 WEB：49）



- 20～40代、学生や会社員を中心に幅広い世代が利用
- 甲府市内／市外のどちらも利用
- 習慣的には来ない層の利用が多いが、日常的に利用する層も約3割
- 一人で、友人や家族との利用がそれぞれ3割以上



4-5 | 来場者属性（来場者アンケート N=158 / 紙：109 WEB：49）



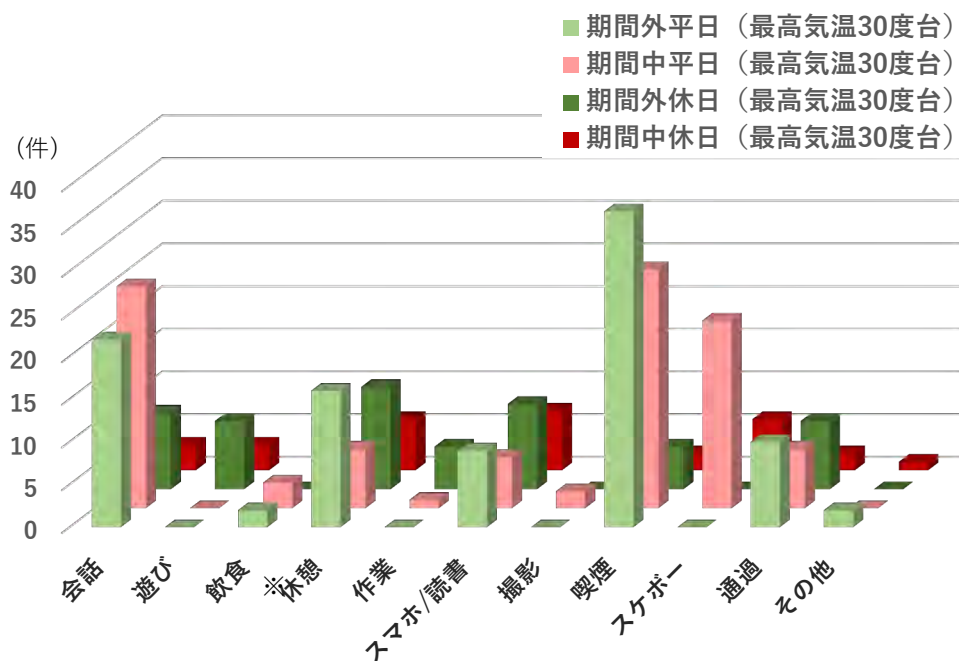
その他：「通りすがり」「職場が近いから」「通っているスケボーパークにスケボー教室のチラシがあったから」「甲府駅前広場の案内」

- 自動車での利用が最も多く、次いで、徒歩、自転車での利用が多い
- 一般利用者は日常の延長として、ストリートスポーツ利用者は普段利用する施設で情報を得て来場していた
- 情報発信媒体は、SNSが半数以上であり、次いで口コミで情報を得た人が多い

4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

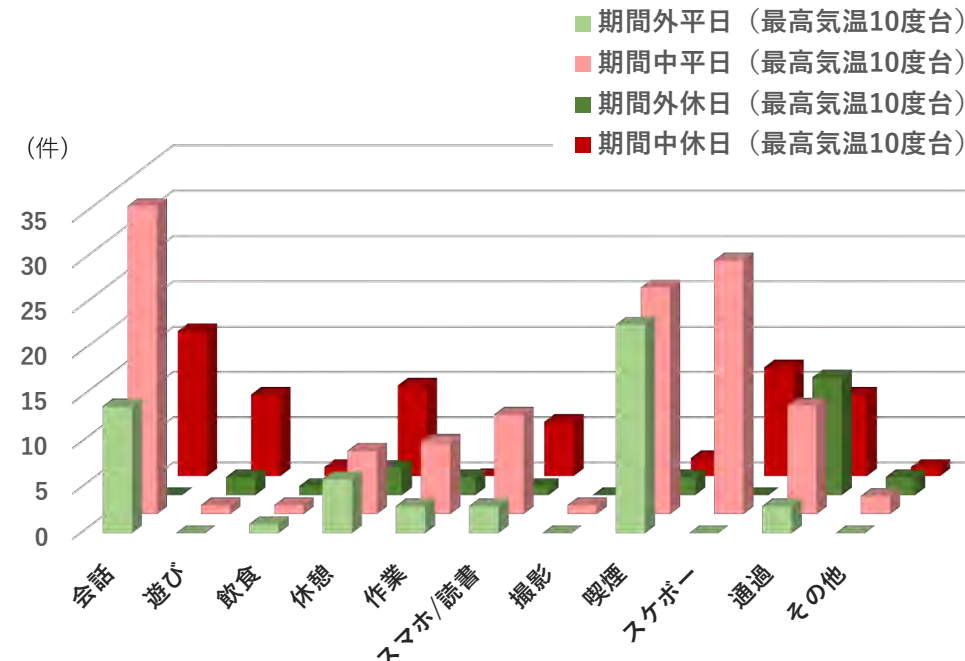
期間内外の1日（8-22時）あたりのアクティビティ量

7月上旬～9月上旬（最高気温30度台）



※期間外の休憩が多いのは、ベンチで長時間寝ていた方を含むため
(平日5.5時間、休日1.5時間)

11月中旬～12月初旬（最高気温10度台）



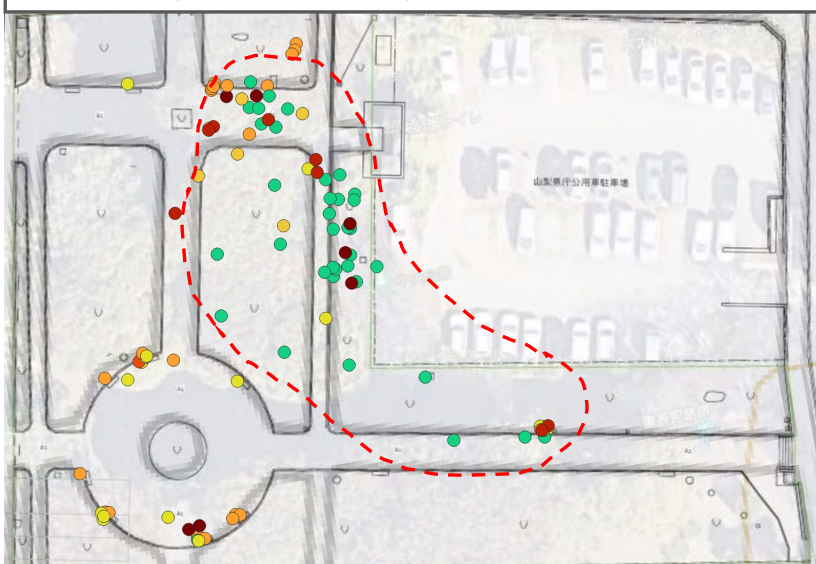
■ストリートスポーツ利用だけでなく、一般利用のアクティビティも充実した

- 夏の暑い時期は、社会実験の前と最中でアクティビティはあまり変わらず、スケボー利用のみ顕著に増加
- 冬の寒い時期は、社会実験中に滞留者が増加し、特に「会話」「飲食」「休憩」「スマホ/読書」が増加しており、一般的な公園利用も充実したとみられる

4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

期間外のアクティビティ分布

7月上旬（最高気温30度台）



社会実験期間中のアクティビティ分布

8月下旬～9月初旬（最高気温30度台）



- 会話
- 遊び
- 飲食
- 休憩
- 作業
- スマホ/読書
- 撮影
- 喫煙
- スケボー
- その他

※滞留行動のみ
プロット

■ 社会実験がはじまると、喫煙者がきちんと灰皿周辺で喫煙するようになった

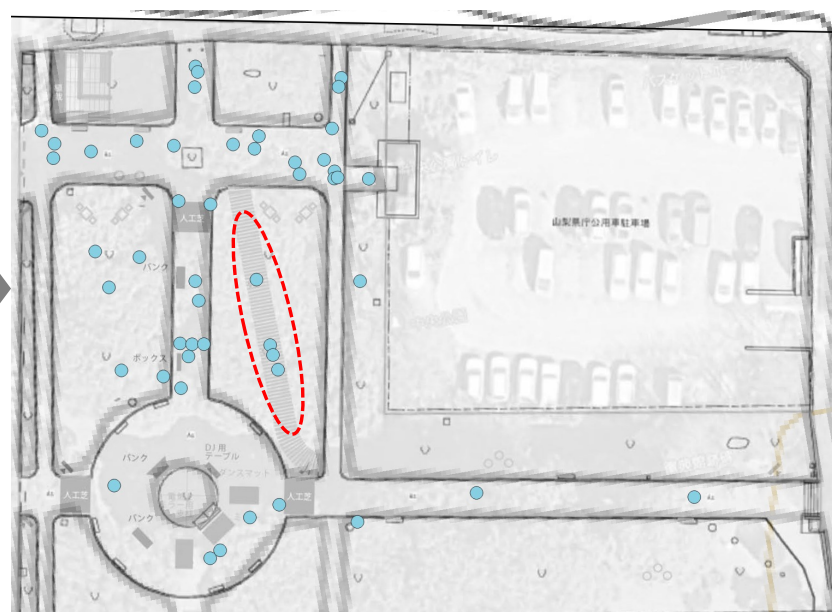
- 園内全体に散らばっていた喫煙者が、社会実験中は灰皿周りに集中、喫煙所以外の場所での喫煙の抑止力につながっている可能性がある

4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

期間外のアクティビティ分布（移動のみ）



社会実験期間中のアクティビティ分布（移動のみ）



■ エリア分けや動線のメリハリをつけることで、喫煙所周辺だけでなく公園全体の利用につながった

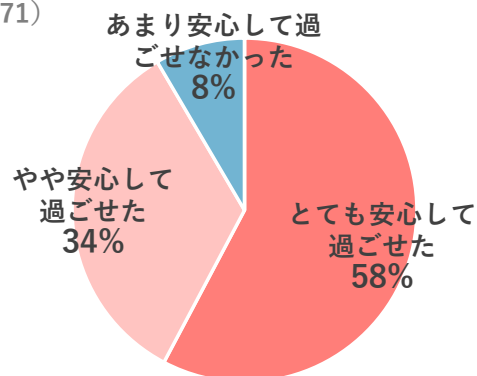
- ストリートスポーツエリアを他のエリアと分けた上で、不足する動線を追加（緑道＝右図の赤破線）したところ、園内の移動は概ね問題なく、緑道を含めた動線利用が確認された

4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

ストリートスポーツ未実施者の公園での滞在の安全性、快適性

社会実験の空間に
安心して滞在できたか否か

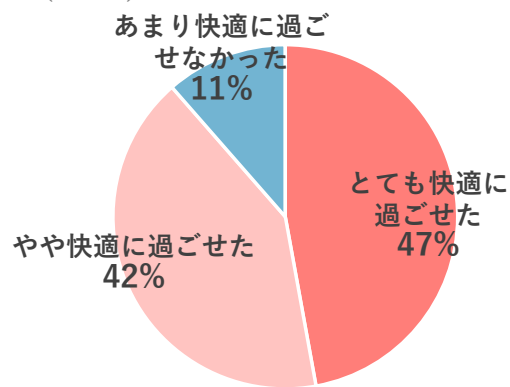
来場者アンケート ストリートスポーツ未実施者
(N=71)



→ (やや+とても) **安心して過ごせた：92%**

社会実験の空間に滞在して
快適に過ごせたか否か

同左 (N=71)

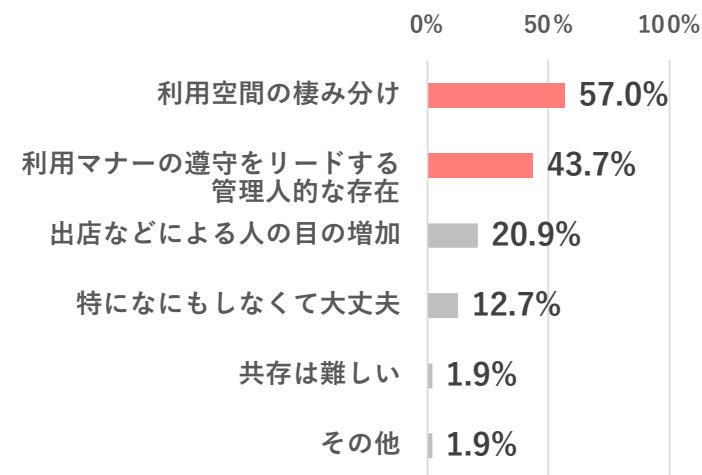


→ (やや+とても) **快適に過ごせた：89%**

来場者全員のストリートスポーツ 利用者との共存アイデア

ストリートスポーツ利用者と一般の公園利用者が
共存できる公園になるため、重要なこと

来場者アンケート 全員 (N=158)



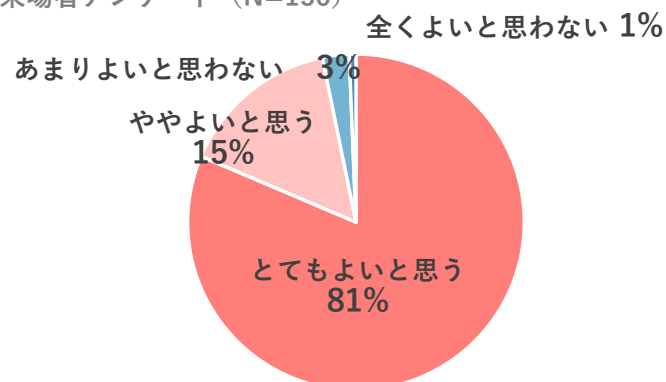
■ 多様な利用者が安心・快適に過ごせるためには空間の棲み分け、管理人的な存在がいることが重要

- ストリートスポーツをしない人の滞在の「安全性」「快適性」は、9割が安全、快適に過ごせたと回答
- 一般利用者とストリートスポーツ利用者が共存できる公園にするために、利用空間の棲み分け、管理人的な存在のニーズが高い

4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

ストリートスポーツができる空間が 公園内にあることへの印象

来場者アンケート (N=156)

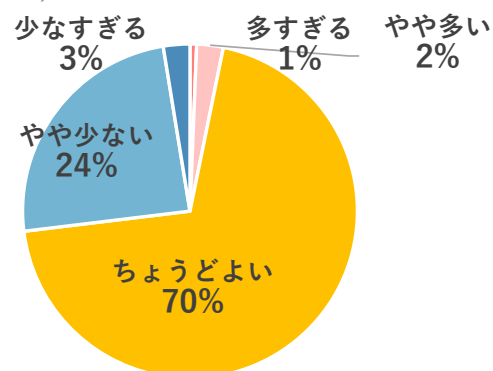


→ (やや+とても) よいと思う : 96%

ポジ意見例: 「セクションもあるのが嬉しい」「場所を用意すべき」「創造性・自己表現・仲間づくりを育む場」

滞留空間の広がりや イス・テーブルの量への印象

同左 (N=156)



→ ちょうどよい : 70%

意見例: 「ストリートスポーツエリア近くへの設置をしてほしい」「カラスの糞により座れない場所もある」



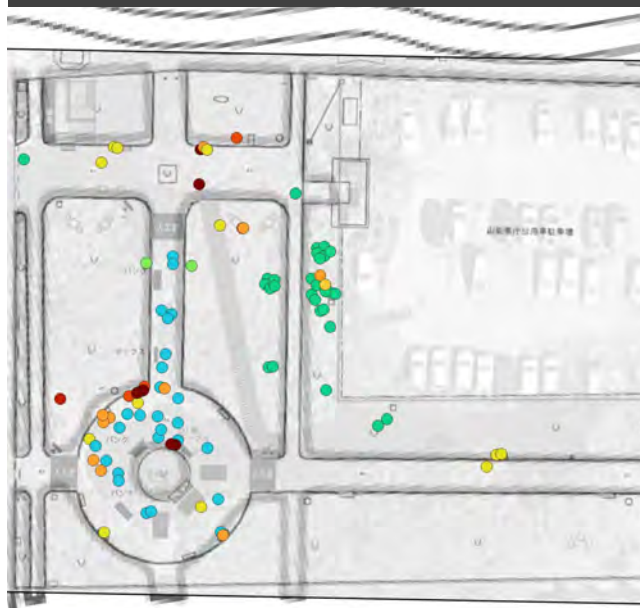
■ ストリートスポーツができる空間が公園にあることへの印象はよい評価が多い

- ストリートスポーツが公園にあることに対して、9割以上がよい印象と評価
- ストリートスポーツのプレーヤーからは、公認された場所でできることが嬉しいとの声があった
- イス・テーブルはちょうどよいという意見が7割だが、さらに増やしてほしい意見も2割以上あり、滞留空間へのニーズが高い
- 「できます看板」は、新しい取組みとしてSNSで拡散されるなど注目度も高かった

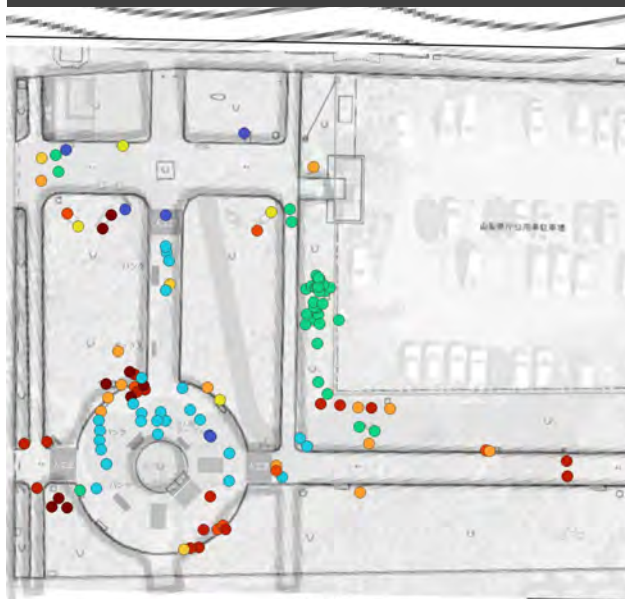
4-6 | 一般利用者と共存できるストリートスポーツ空間の検証

社会実験期間中のアクティビティ分布 季節の変化

8月下旬～9月上旬（最高気温30度台）

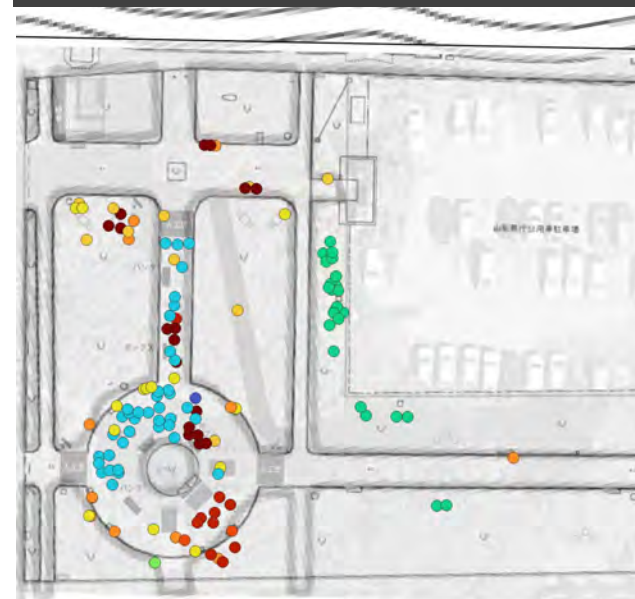


10月中旬（最高気温20度台）



※スケートボード教室あり

11月中旬（最高気温10度台）



※スケートボード教室あり

- | | |
|------|----------|
| ● 会話 | ● スマホ/読書 |
| ● 遊び | ● 撮影 |
| ● 飲食 | ● 喫煙 |
| ● 休憩 | ● スケボー |
| ● 作業 | ● その他 |

※滞留行動のみプロット

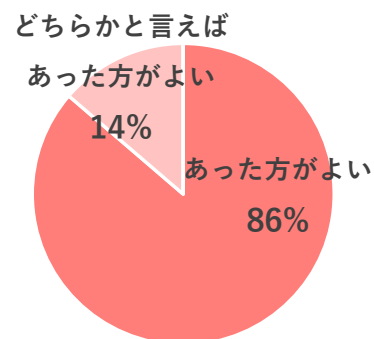
- 教室の有無に関わらず、ストリートスポーツエリアでのスケボー利用がみられる
- 20度以上、10度以上ではストリートスポーツエリア以外でのアクティビティも多い

4-7 | 夜も魅力的かつ安心できる照明

公園のライトアップはあった方が 良いか否か

来場者アンケート (N=146)

どちらかといえばない方がよい 0 %
ない方がよい 0 %

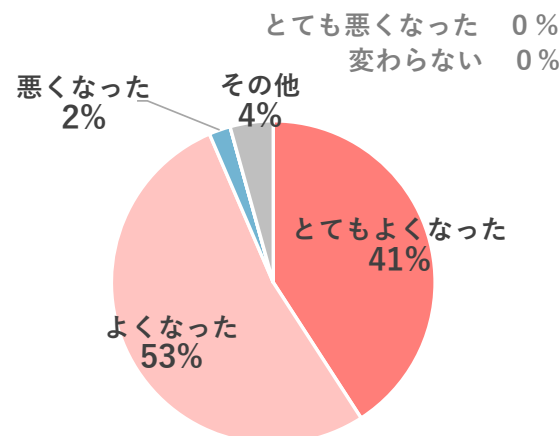


➡ (どちらかといえば+あった方が)
あった方がよい：100%

ポジ意見例：「スケーターの活動の幅が広がる」「治安のため」「華やかな方が不良が近づきにくい」

夜間照明への印象

近隣生活者アンケート (N=93)



➡ (よく+とても) **よくなった：94%**



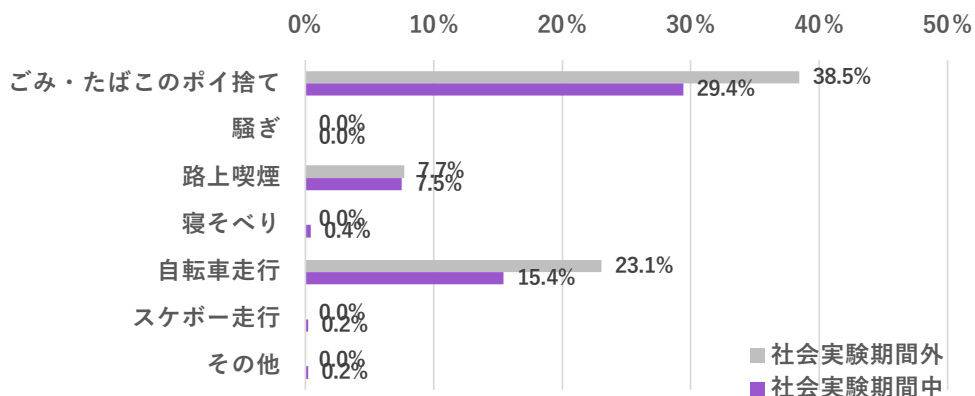
夜間照明の様子

■公園のライトアップは、ニーズも高く、防犯や日没後の利用につながった

- 公園のライトアップは、来場者は10割、近隣生活者は9割以上が**あった方がよい**と回答
- 防犯・日没後のストリートスポーツ利用の観点から**あった方がよい**との声が多数

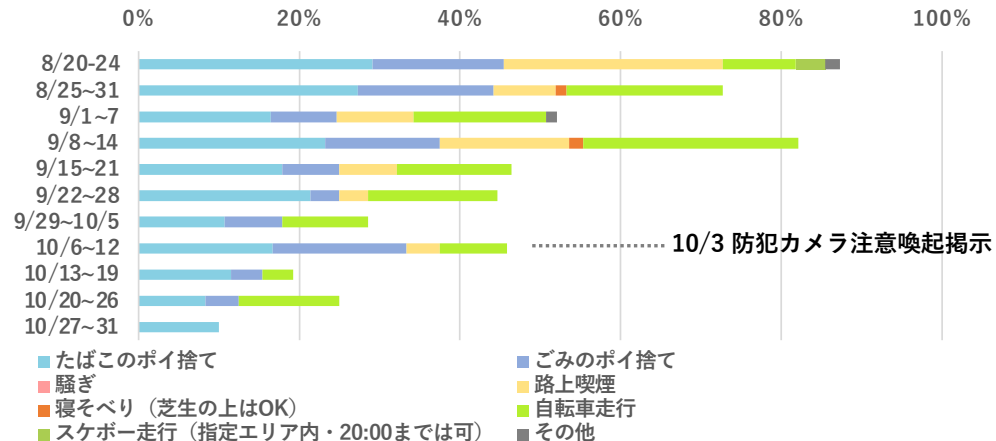
4-8 | 不適切利用の抑制

社会実験期間中・期間外の不適切行為数の比較



※1時間に1回の会場巡回中に不適切行為に遭遇する頻度を表しています。

社会実験期間中の不適切行為数推移



※1時間に1回の会場巡回中に不適切行為に遭遇する頻度を表しています。

■ ゴミ・たばこのポイ捨て、自転車走行など、不適切行為は全体的に減少

- ゴミ・たばこのポイ捨て、自転車走行などの行為は社会実験中に減少、喫煙については微減した
- 防犯カメラ注意喚起掲示を行った翌週から不適切行為は減少し、一定の効果があったと思われる

4-9 | カラス/蚊対策



市役所展望ルームから観察



中央公園付近から観察

■公園の快適性に大きく影響する生き物（カラスや蚊など）による害への対応は継続検討が必要

- 夏は蚊・夏秋にかけてのカラス・鳥の糞の問題が深刻であり、利用促進を妨げる要因になっている
- カラス対策は、イベント時にレーザーポインタで追い払いを実施し一定の効果を上げたが、持続性に課題が残った。専門家から生態や対応策を学ぶ機会を設けたが、カラスと人間の暮らすエリア分けが必要。
- 蚊の対策については、ボウフラから孵化した成虫を捕まえる器具を設置したが効果は限定的。

4-10 | ストリートスポーツ利用のマナーの維持の検証

■利用可能時間をわかりやすく掲示することで、夜間の不適切な利用が抑制された

- 社会実験開始直後の9月初旬に、夜間の音についてのクレームが1件あった
- その当時、スケートボードの利用時間の表記が小さくわかりにくかったこともあり、右写真のように利用時間をわかりやすく掲示し直した
- その後、クレームは一切なく、マナーを守った利用がされていた

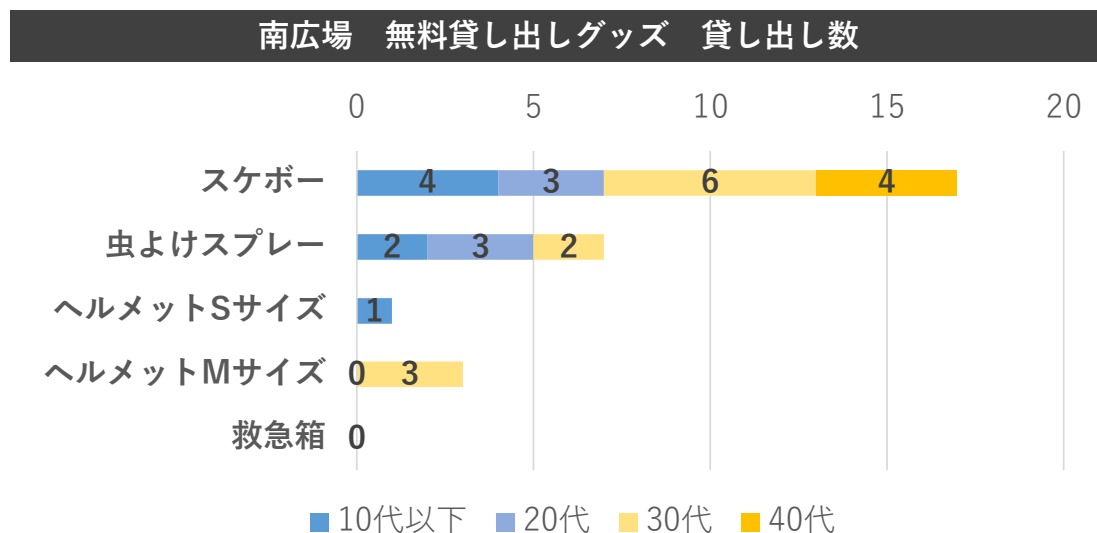


見直し後の利用時間の掲示

■可動イス・テーブル夜間も置いておく管理方法（置きっぱなし運用）で、問題なく管理ができた

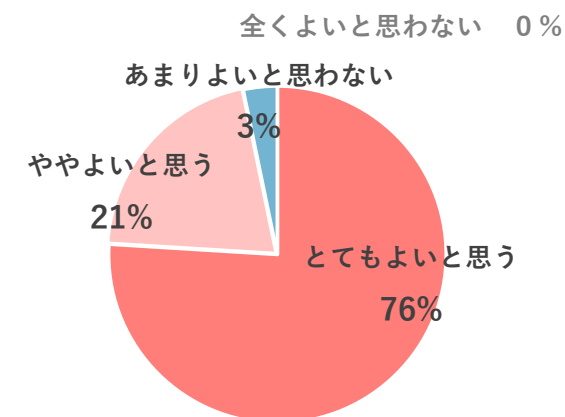
- 平日・休日共に夜間の利用はほとんどなく、置きっぱなし運用にも問題がなかった

4-11 | 無料貸し出しグッズのニーズ



ストリートスポーツ向けの グッズ貸し出しサービスがあることへの印象

来場者アンケート (N=154)



➡ (やや+とても) よいと思う : 97%

ポジ意見例 : 「始めるきっかけになる」
ネガ意見例 : 「衛生面での心配」 「ケガの心配がある」

■ ストリートスポーツグッズの貸し出しは利用者も多くニーズが高い

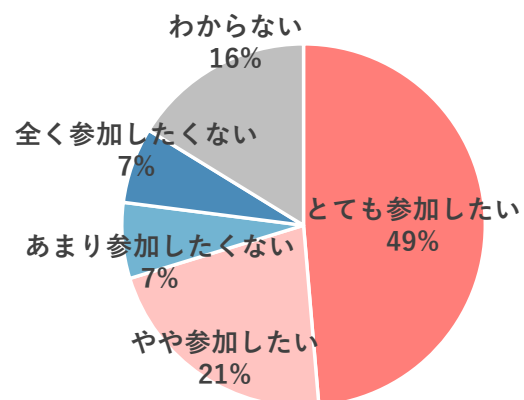
- グッズ貸し出しサービスは多く利用されており、「よい」が9割以上
- 子どもたちなど、初めてストリートスポーツを体験する機会づくりにつながり、貸し出し物品や教室をきっかけにストリートスポーツを始める人がいた
- 今回の体験をきっかけにスケートボードグッズを1式全部そろえた子が7人いた

4-12 | ストリートスポーツ教室のニーズ

公園などで初心者～上級者向けのスクールが定期的にあったら参加したいか否か

スケートボード

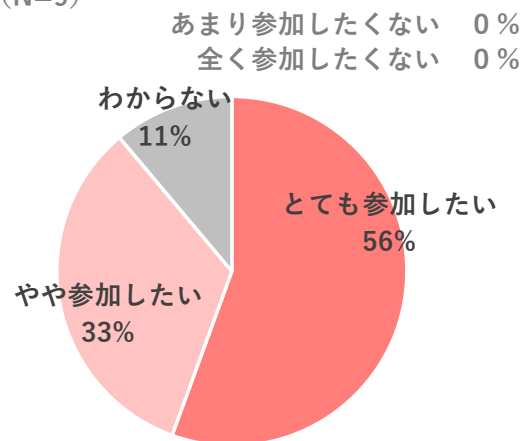
来場者アンケート (N=74)



⇒ (やや+とても) 参加したい：70%

ダンス・ダブルダッチ等

同左 (N=9)



⇒ (やや+とても) 参加したい：92%

場所を選ぶときに重視するポイント
(中央公園にほしいポイント)

スケートボード

- 1位 路面が滑りやすいこと
- 2位 セクションのおもしろさ／豊富さ

ダンス・ダブルダッチ等

- 1位 音楽を流しても問題がない/許容されていること
- 2位 屋根があって雨でも使えるスペースがあること

■ ストリートスポーツに関する教室やイベントニーズが確認できた

- ストリートスポーツ教室は、参加者も多くニーズが高い（実験期間中の教室参加者141人）
- 初心者～上級者向けの教室開催への参加は7割以上が参加したいと回答
- スケートボードでは、セクションのおもしろさや路面の滑りやすさ、ダンス・ダブルダッチ等では、音楽を流しても問題ないことが重要

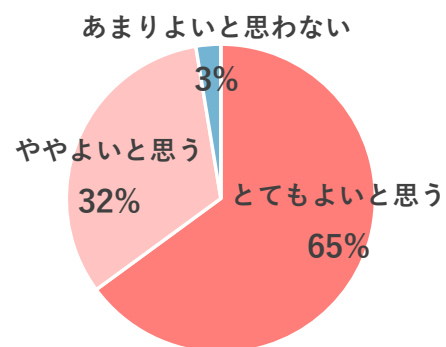
スケートボード：87人
ダンス：40人
ダブルダッチ：14人

4-13 | 日常的な出店の検証

出店があることへの印象

来場者アンケート (N=154)

全くよいと思わない 0%



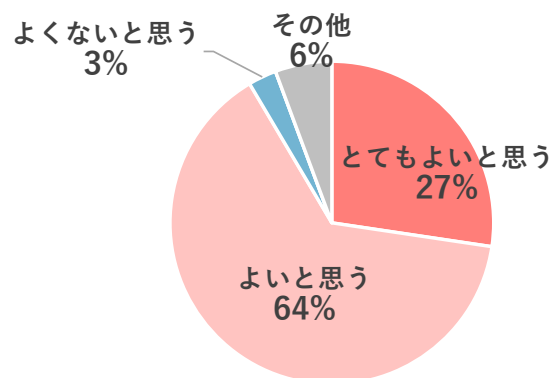
⇒ (やや+とても) よいと思う：97%

ポジ意見例：「活気が出る」「出会いのきっかけになる」
「駅と飲み屋街をつなぐ結節点だから」

出店があると良いか

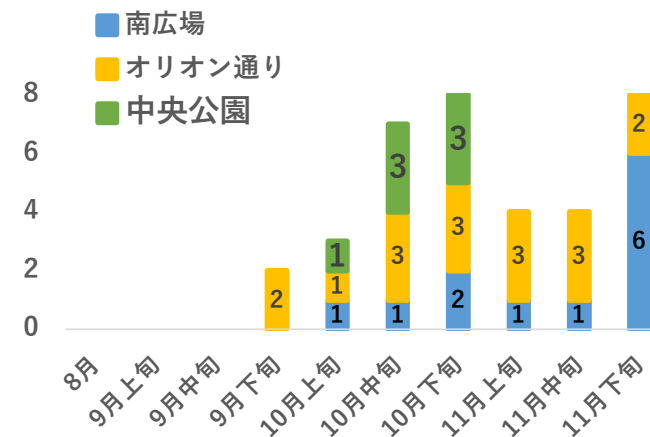
近隣生活者アンケート (N=212)

とてもよくないと思う 0%



⇒ (よい+とても) よいと思う：91%

会場別出店希望日



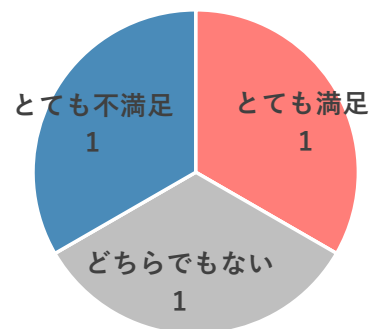
■来場者、近隣生活者からは出店ニーズがあることが確認できた

- 公園に店舗の出店があることに対して、来場者・一般・近隣生活者ともに約9割がよい評価
- 実験期間中の出店希望7件、通常の出店2件、イベントでの出店4件があった

4-13 | 日常的な出店の検証

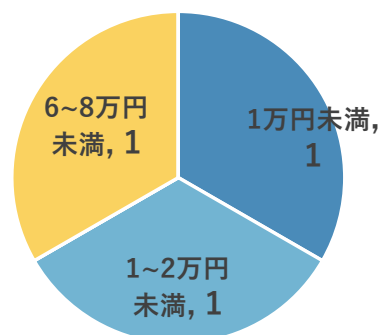
出店の満足度

出店者アンケート（N=3）



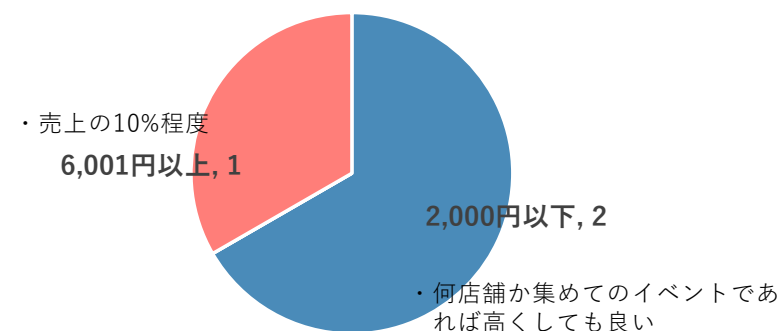
出店の売上金額（税込）

同左（N=3）



同様の場所・条件で出店する場合の出店料の許容上限

同左（N=3）



良かったこと

- ・ 出店場所の雰囲気がとても良い
- ・ 会場デザイン・設備の質が高い
- ・ 運営スタッフの対応が丁寧で好印象
- ・ 出店手続きが分かりやすくスムーズ
- ・ また出店したいと思えるイベント

改善されると良いこと

- ・ 出店時間の延長を希望
- ・ 場所の認知・視認性が低い

■ イベント時の出店は好調／非イベント時は難しさもあり

- 出店者からは、出店場所の雰囲気、会場の動線や設備・客層・運営スタッフなどへの評価があった
- 通りからの視認性や認知、出店料の設定（今回程度を望む意見／売上の10%程度）、出店形態（複数出店がある」とよいとの意見あり）などが今後の課題として挙げられている

4-13 | 日常的な出店の検証

出店の募集概要／出店の様子	
利用可能日	木・土
利用可能時間	平日11:00 - 15:00 (設営10:00から 撤収16:00まで) 土曜日 9:00 - 21:00 (設営8:00から 撤収22:00まで)
利用料金	平日：2,000円／4時間まで 休日：2,000円／4時間 3,000円／全日
出店形態	①出店ブース
出店者向け貸出什器	<div> ●出店ブース 4,500mm × 5,400mm </div> 
出店の様子	<div>  出店ブースを活用した出店 </div> <div>  イベント時の出店 </div>

■ 他会場に比べ出店の難しさがあるため、そこをフォローできる運用の検討も必要

- 出店の難しさがあるため、出店料は下げてもよいのではないか
- 市外から中央公園の状況を知らずに出店された方もいる。出店場所やニーズとのマッチングなど、審査以上のマネジメントやディレクションができればよかった

■ 周辺ワーカーやストリートスポーツとの相性を踏まえた出店が検討できるとよい

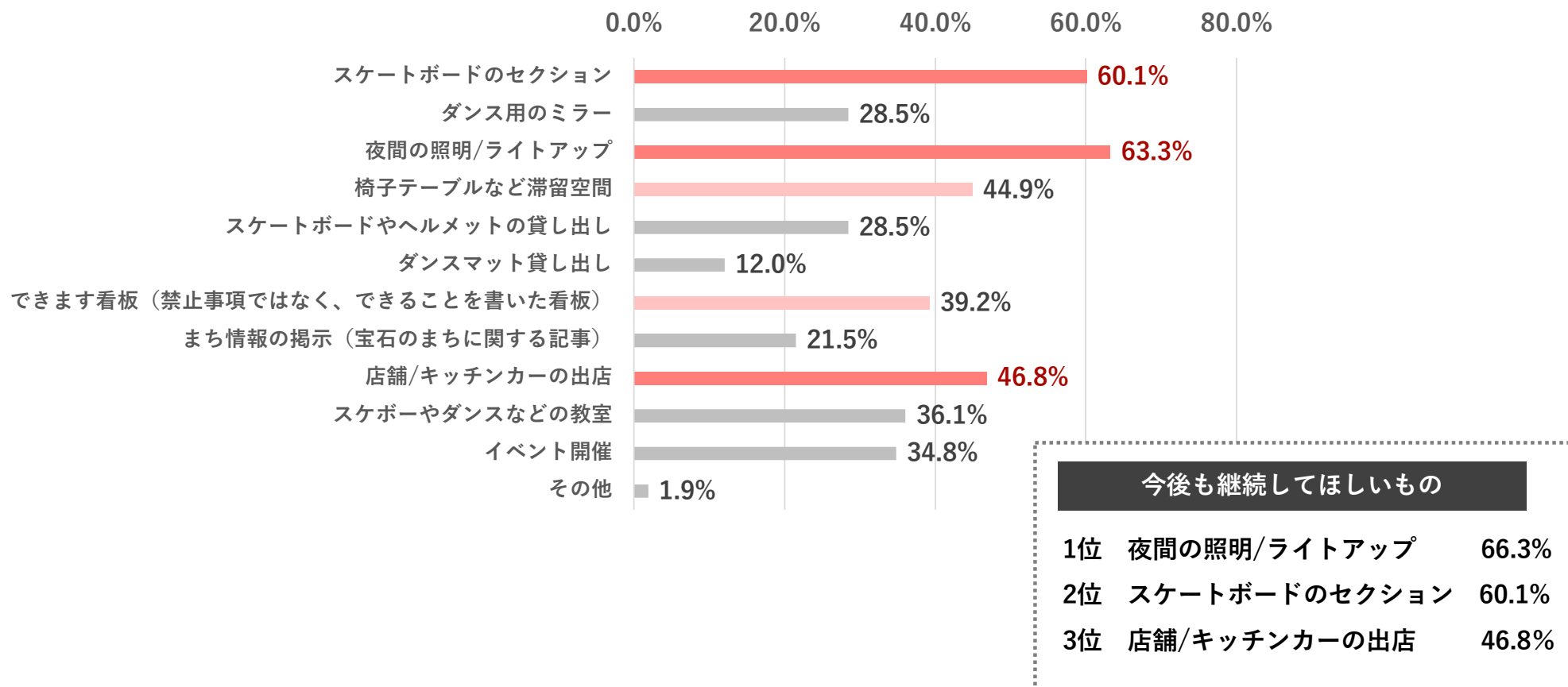
- 中央公園をよく利用するサラリーマン層と相性が良いコーヒーやソフトドリンクなどの軽飲食や、ストリートスポーツと親和性のある店舗を誘致できるとよい

■ 出店ブースは利活用しやすい形態にしたい

- 出店ブースは使い勝手が難しかった。2～3畳程度の広さでも良かったかもしれない

4-14 | 今後も継続してほしいハード

来場者アンケート（N=148）



5. まとめと今後の展望

まともと今後の展望

今年度の社会実験をふりかえり総括し、来年度および今後に向けた展望を記す。なお、効果検証の成果についてはp.8のサマリーおよび2章から4章のはじめのページに付した検証結果（結論）を参照してほしい。

【まとも】

- ① ハードの計画・設計時の留意点が多数明らかになった
- ② 3会場でAPが担うべき利活用/運営についても大きな方向性が確認できた（以下、案）
 - 南広場：イベント/出店の調整、滞留空間の管理/運営 など
 - オリオン通り：出店の調整、滞留空間の管理/運営 など
 - 中央公園：スケートボードなどストリートスポーツエリアの管理/運営 など

【今後の展望】

- ① 今後、公園管理者や道路管理者など、適切な関係者に対して、ハードの計画・設計時の留意点を整理して伝えていく
- ② 今後の自走化に向けて、APの担う利活用/運営について、事業性の検証を含めた持続可能な仕組みや体制の確立に向けた調査を行う